

大本山総持寺蔵佛遺教經漢字索引

小林 恭 治

《凡例》

一、本稿は、道元禅師の筆跡研究に資するため、大本山総持寺蔵「佛遺教經」一卷一軸（全八紙）のうち、奥付記載の一紙を除いた禅師真筆とされる七紙に記された「佛遺教經」本文における訓点以外のすべての漢字を検索することを目的とした漢字の一字索引である。

一、本稿は、「本文翻字」、「漢字索引」、「注記」の三部からなる。

〔本文翻字〕

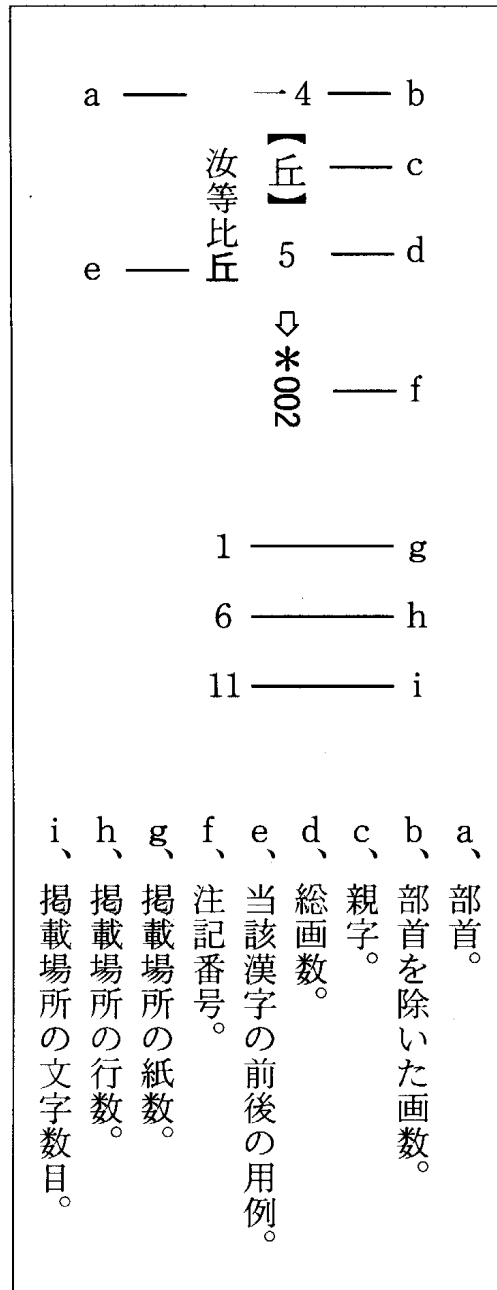
一、漢字本文の翻字については、原則として、日本工業規格（JIS規格）の第一水準・第二水準にある漢字（情報交換用漢字符号系JIS C 6226-1983）の字体に従った。

一、JIS規格に、いわゆる旧字体と新字体の別のある場合には、原本により近い方を選択し、旧字体・新字体のいずれかに統一することはしなかった。

- 一、旧字体の方が原本に近いにもかかわらず、旧字体がJIS規格にない場合は、原本に基づいて作字、または新字体で代用し、「注記」において「JIS外字」である旨を示した。
- 一、旧字体・新字体ともにJIS規格に見えない漢字は原本に基づいて作字し、「注記」において「JIS外字」である旨を示した。
- 一、JIS規格と原本との間に字体・字形の異同が存する場合は、「注記」においてその旨を示した。
- 一、本文翻字の際、改行などの体裁は原本の状態に従った。
- 一、原本の段落とも言うべき切れ目の冒頭には朱の「○」印があるが、それは黒の「○」で示した。
- 一、原本記載の朱の区切り点を黒の句点で示した。

〔漢字索引〕

- 一、本索引は漢字一字毎の検索を目的とした部首引き索引で、画数順に配列している。
- 一、検索の対象は、原則として道元禅師自筆とされる「佛遺教経」の内題・尾題を含む本文（全七紙）に記載された漢字に限定し、後筆の奥書（第八紙目）と、振仮名や返り点に現れるものは対象としない。
- 一、本文へ補入された漢字は、後筆の疑いのあるものも対象に含めたが、その旨は「注記」に示した。
- 一、配列は、原則として、藤堂明保編『学研漢和大字典』（第22刷 学習研究社 昭61）に従ったが、これに収録されない漢字の場合は、字画の数に従って適宜補入した。
- 一、用例中の該当漢字はゴシック体で示した。
- 一、冒頭に「部首引検字表」を付す。



〔注記〕

- 一、本注記は、本文翻字の際に確認された原本記載の漢字とJIS漢字との相違点の覚書きである。
- 一、字体の相違の他にも原本筆者の書き癖なども気をつくり記載した。
- 一、一つの漢字に用例が複数見られるもので、特徴がいくつかに分類される場合は、用例を適宜、a・b・c……のようにより分類し、それらの相違を解説した。
- 一、記述に現れる「大藏經」とは、『大正新修脩大藏經』第十二卷所載の「三八九 佛垂般涅槃略説教誡經」の翻刻を指す。
- 一、岩井孝樹氏の「道元の遺墨『仏遺教経』」(『佛教藝術』二〇二号 一九九二年六月)に言及・挙例の存する漢字三十四字については、(岩井92)の記述を付した。

〔本文翻字〕

〈第一紙〉

1-1 佛垂般涅槃略說教誡經

1-2 姚秦三藏法師 鳩摩羅什譯

1-3 釋迦牟尼佛。初轉法輪度阿若憍陳如。最後

1-4 說法。度須跋陀羅。所應度者。皆已度訖。於娑

1-5 羅雙樹間。將入涅槃。是時中夜。寂然無聲。爲

1-6 諸弟子。略說法要。汝等比丘。於我滅後。當尊

1-7 重珍敬波羅提木叉。如闇遇明貧人得寶。當

1-8 知此則是汝大師。若我住世無異此也。持淨

1-9 戒者。不得販賣貿易安置田宅畜養人民奴

1-10 婢畜生一切種植。及諸財寶皆當遠離如避

1-11 火坑。不得斬伐草木墾土掘地合和湯藥占

1-12 相吉凶仰觀星宿。推步盈虛曆數筭計皆所

1-13 不應。節身時食清淨自活。不得參預世事通

1-14 致使命呪術仙藥結好貴人親厚嫫慢。皆不

1-15 應作。當自端心正念求度。不得包藏瘕疵顯

1-16 異惑衆。於四供養知量知足。趣得供事不應

1-17 畜積。此則略說持戒之相。戒是正順解脫之

1-18 本故名波羅提木叉。依因此戒得生諸禪定

1-19 及滅苦智慧。是故比丘當持淨戒勿令毀缺。

1-20 若人能持淨戒是則能有善法。若無淨戒諸

1-21 善功德皆不得生。是以當知戒爲第一安穩

1-22 功德之所住處。

1-23 ○汝等比丘。已能住戒。當制五根勿令放逸入

1-24 於五欲。譬如牧牛之人執杖視之不令縱逸

〈第二紙〉

2-1 犯人苗稼。若縱五根。非唯五欲將無崖畔不

2-2 可制也。亦如惡馬不以轡制將當牽人墜於

2-3 坑塢。如被賊害苦止一卅。五根賊禍殃及累

2-4 卅爲害甚重。不可不慎。是故智者制而不隨。

2-5 持之如賊不令縱逸。假令縱之皆亦不久見

2-6 其磨滅。此五根者心爲其主。是故汝等當好

2-7 制心。心之可畏甚於毒蛇。惡獸怨賊大火越

2-8 逸未足喻也。譬如有人手執蜜器動轉輕躁

2-9 但觀於蜜不見深坑。譬如狂象無鉤猿猴得

2-10 樹騰躍踔躑難可禁制。當急挫之無令放逸。

2-11 縱此心者喪人善事。制之一處無事不辦。是

2-12 故比丘當勤精進折伏汝心。

2-13 ○汝等比丘。受諸飲食當如服藥。於好於惡勿

2-14 生增減。趣得支身以除飢渴如蜂採華但取

2-15 其味不損色香。比丘亦尔。受人供養趣自除

2-16 惱。無得多求壞其善心。譬如智者籌量牛力

2-17 所堪多少不令過分以竭其力。

2-18 ○汝等比丘。晝則勤心修習善法。無令失時。初

2-19 夜後夜亦無有廢。中夜誦經以自消息。無以

2-20 睡眠因緣令一生空過無所得也。當念無常

2-21 之火燒諸卅間早求自度勿睡眠也。諸煩惱

2-22 賊常伺殺人。甚於怨家。安可睡眠不自警悟。
2-23 煩惱毒蛇睡在汝心。譬如黑虻在汝室眠。當
2-24 以持戒之鈎早屏除之。睡蛇既出乃可安眠。
2-25 不出而眠是無慙人也。慙耻之服於諸莊嚴

〈第三紙〉

3-1 最爲第一。慙如鐵鈎能制人非法。是故比丘
3-2 常當慙耻勿得暫替。若離慙耻則失諸功德。
3-3 有愧之人則有善法。若無愧者。與諸禽獸。無
3-4 相異也。
3-5 ○汝等比丘。若有人來節節支解。當自攝心無
3-6 令瞋恨。亦當護口勿出惡言。若縱恚心則自
3-7 妨道失功德利。忍之爲德。持戒苦行所不能

3-8 及。能行忍者。乃可名爲有力大人。若其不能
3-9 歡喜忍受惡罵之毒如飲甘露者。不名入道
3-10 智慧人也。所以者何。瞋恚之害則破諸善法。
3-11 壞好名聞。今世後世人不喜見。當知瞋心甚
3-12 於猛火。常當防護勿令得入。劫功德賊無過
3-13 瞋恚。白衣受欲非行人。無法自制瞋猶可
3-14 恕。出家行道無欲之人。而懷瞋恚甚不可也。
3-15 譬如清冷雲中而有霹靂起火非所應也。
3-16 ○汝等比丘。當自摩頭以捨飾好。着壞色衣者。
3-17 持應器以乞自活。自見如是若起憍慢當疾
3-18 滅之。增長憍慢尚非世俗白衣所宜。何況出
3-19 家入道之人。爲解脫故。自降其心而行乞也。
3-20 ○汝等比丘。諂曲之心與道相違。是故宜應質
○執

3-21 直其心。當知諂曲但為欺誑。入道之^人。則無是

3-22 處。是故汝等宜應端心以質直為本。

3-23 ○汝等比丘。當知多欲之人。多求利故苦惱亦

3-24 多。少欲之人。無求無欲則無此患。直尔少欲

3-25 尚應修習。何況小欲能生諸功德。少欲之人

〈第四紙〉

4-1 則無諂曲以求人意。亦復不為諸根所牽。行

4-2 少欲者。心則坦然無所憂畏。觸事有餘常無

4-3 不足。有少欲者。則有涅槃。是名少欲。

4-4 ○汝等比丘。若欲脫諸苦惱。當觀知足。知足之

4-5 法即是富樂安隱之處。知足之人雖卧地上

4-6 猶為安樂。不知足者雖處天堂亦不稱意。不

4-7 知足者雖富而貧。知足之人雖貧而富。不知

4-8 足者常為五欲所牽。為知足者之所憐愍。是

4-9 名知足。

4-10 ○汝等比丘。欲求寂靜無為安樂。當離憤鬧獨

4-11 處閑居。靜處之人帝釋諸天所共敬重。是故

4-12 當捨己眾他眾。空閑獨處思滅苦本。若樂眾

4-13 者。則受眾惱。譬如大樹眾鳥集之則有枯折

4-14 之患。世間縛着沒於眾苦。譬如老象溺泥不

4-15 能自出。是名遠離。

4-16 ○汝等比丘。若勤精進則事無難者。是故汝等

4-17 當勤精進。譬如小水常流則能穿石。若行者

4-18 之心數數懈廢。譬如鑽火未熱而息雖欲得

4-19 火火難可得。是名精進。

4-20 ○汝等比丘。求善知識。求善護助。無如不念。

4-21 若有不念者。諸煩惱賊則不能入。是故汝

4-22 等常當攝念在心。若失念者則失諸功德。若

4-23 念力堅強。雖入五欲賊中。不爲所害。譬如着

4-24 鎧入陣則無所畏。是名不念。

4-25 ○汝等比丘。若攝心者。心則在定。心在定故。能

〈第五紙〉

5-1 知世間生滅法相。是故汝等。常當精勤修習

5-2 諸定。若得定者。心則不散。譬如防水之家善

5-3 治堤塘。行者亦尔。爲智慧水故。善修禪定令

5-4 不漏失。是名爲定。

5-5 ○汝等比丘。若有智慧則無貪着。常自省察。不

5-6 令有失。是則於我法中能得解脫。若不尔者

5-7 既非道人。又非白衣。無所名也。實智慧者則

5-8 是。度老病死海堅牢船也。亦是無明黑闇大

5-9 明燈也。一切病者之良藥也。伐煩惱樹之利

5-10 斧也。是故汝等。當以聞思修慧而自增益。若

5-11 人有智慧之照。雖是肉眼而是明見人也。是

5-12 爲智慧。

5-13 ○汝等比丘。若種種戲論其心則亂。雖復出家猶

5-14 未得脫。是故比丘當急捨離亂心戲論。汝若

5-15 欲得寂滅樂者。唯當善滅戲論之患。是名不

5-16 戲論。

5-17 ○汝等比丘。於諸功德。常當一心捨諸放逸。如

5-18 離怨賊。大悲世尊所說利益皆以究竟。汝等

- 5-19 但當勤而行之。若於山間。若空澤中。若在樹
5-20 下閑處靜室。念所受法。勿令忘失。常當自勉
5-21 精進修之。無爲空死後致有悔。我如良醫知
5-22 病說藥。服與不服非醫咎也。又如善導示人
5-23 善道。聞之不行非導過也。汝等若於苦等四
5-24 諦有所疑者。可疾問之。無得懷疑不求決也。
5-25 尔時卍尊。如是三唱人無問者。所以者何。衆

6-1 無疑故。時阿菟樓陁觀察衆心而。白佛言。卍
6-2 尊。月可令熱日可令冷。佛說四諦不可令異。
6-3 佛說苦諦實苦。不可令樂。集真是因。更無異
6-4 因。苦若滅者即是因滅。因滅故果滅。滅苦之

6-5 道實是真道。更無餘道。卍尊是諸比丘。於四
6-6 諦中。決定無疑。於此衆中。若有所作未辦者。
6-7 見佛滅度。當有悲感。若有初入法者。聞佛所
6-8 說。即皆得度。譬如夜見電光即得見道。若有
6-9 所作已辦已度苦海者。但作是念。卍尊滅度
6-10 一何疾哉。阿菟樓陁雖說是語。衆中皆悉了
6-11 達四聖諦義。卍尊欲令此諸大衆皆得堅固。
6-12 以大悲心。復爲衆說。
6-13 ○汝等比丘。勿懷悲惱。若我住卍一切。會亦當
6-14 滅。會而不離終不可得。自利利人法皆具足。
6-15 若我久住。更無所益。應可度者。若天上人間
6-16 皆悉已度。其未度者皆亦已作得度因緣。自
6-17 今已後我諸弟子。展轉行之。則是如來法身。

〈第六紙〉

6-18 常在而不滅也。是故當知世皆無常。會必有

離。勿懷憂惱。世間想如是。當勤精進早求解脫。

6-20 以智慧明滅諸癡闇。世實危脆無牢強者。我

6-21 今得滅如除惡病。此是應捨罪惡心之物。假名

6-22 爲身。沒在老病生死大海。何有智者得除滅

6-23 之。如殺怨賊而不歡喜。汝等比丘常當一心

6-24 勤求出離道。一切世間動不動法皆是敗壞不

6-25 安之相。汝等且止勿得復語。時將欲過。我欲

〈第七紙〉

7-1 滅度。是我最後之。所教誨。

7-2 【空行】

7-3 佛垂般涅槃略說教誡經

〔漢字索引〕

部首引檢字表

中 [↑] 卍 世 且 丘 不 与 [↕] 上 三 下 一 [∧] **一** 部

部

77 76 76 76 75 74 74 74 74 74

亂 乱 也 乞 ^乙 及 久 乃 ^丿 主 之 [∨] 部

亂 [↓] 亂

部

79 79 79 79 78 78 78 77

今 人 ^人 亦 ^亼 五 ^三 **二** 事 了 ^丿 部

部

部

部

81 80 80 80 80 79

但 住 伺 作 何 伏 伐 仰 会 仮 令 他 仙 以 仏 什

[↓] [↓] [↓]

會 假 佛

83 83 83 83 83 83 83 83 82 82 82 81 81

^八 入 ^入 光 ^儿 假 修 俗 供 使 依 佛 余 ^余 部

部

部

部

部

85 84 84 84 84 84 84 84 84

則制劫利初分切 ㄈ 出凶 ㄇ 処 ㄎ 冷 ㄏ 具其共
 (ㄈ) (ㄇ) (ㄎ) (ㄏ)
 87 87 86 86 86 86 86 86 86 86 86 86 85 85 85 85

ㄇ 占 ㄏ 医 ㄍ 包勿 ㄎ 勤 勤 動 勉 助 劫 功 力 ㄈ
 (ㄇ) (ㄏ) (ㄍ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ)
 89 89 89 89 89 89 88 88 88 88 88 88 88 87

吉可口 ㄍ 三画 受取双 又 又 ㄎ 参 ㄍ 厚 ㄍ 即危
 (ㄍ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ)
 91 90 90 90 90 90 90 90 90 90 90 89 89 89

因四 ㄍ 巖 器 器 喻 喪 善 喜 唯 問 唱 哉 和 味 命 呪 咎 名 合
 (ㄍ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ) (ㄎ)
 93 93 93 92 92 92 92 92 92 92 92 92 91 91 91 91 91 91 91

壞 壘 壞 增 墜 增 塘 堤 堅 堪 培 堂 執 坦 垂 坑 地 在 土 ㄍ 固
 (ㄍ) (ㄍ) (ㄍ) (ㄍ) (ㄍ) (ㄍ) (ㄍ) (ㄍ) (ㄍ) (ㄍ) (ㄍ) (ㄍ) (ㄍ) (ㄍ) (ㄍ) (ㄍ) (ㄍ) (ㄍ) (ㄍ)
 95 95 95 95 95 95 95 94 94 94 94 94 94 94 94 94 93 93 93 93

婢 娑 姚 妨 如 好 奴 **女部** 失 天 大 **大部** 夜 多 **夕部** 壳 **賣部** 声 **聲部** **士部**
(貝部) (耳部)

97 97 97 97 96 96 96 96 96 96 96 95 95

寶 實 察 富 宿 寂 害 家 室 宝 **寶部** 定 実 **實部** 宜 宅 安 **宀部** 子 **子部** 媿

99 99 99 99 99 99 99 99 99 98 98 98 98 98 98

屏 **屏部** 展 屏 居 尼 **戶部** 窰 尚 当 **當部** 少 小 **小部** 導 **導部** 導 **導部** 尊 將 将 **將部**

101 101 101 101 101 101 101 100 100 100 100 100

強 弟 **弓部** 廢 廢 **廢部** 度 **广部** 常 師 帝 **巾部** 己 己 **己部** 崖 山 **山部**

103 103 103 102 102 102 102 101 101 101 101

思 急 怨 念 忘 忍 必 心 **心部** **四画** 嚴 **嚴部** 德 德 **德部** 復 得 後 **彳部**
(口部)

106 106 106 106 106 105 105 105 104 104 103 103

慢 慙 慧 慎 愧 惱 愍 感 意 惑 悲 惱 悉 悟 患 恥 惡 息 怨 恨 悔 恚

↓
耻
(耳部)

109 109 108 108 108 108 108 108 108 108 108 107 107 107 107 107 107 107 107 107 106 106

持 折 手 ^手 所 ^戶 戲 戲 戒 我 ^戈 應 懷 懈 憐 憍 憤 慚 憂
(扌) 部 ↓ 戲 部

111 111 111 111 110 110 110 109 109 109 109 109 109 109 109

数 散 敬 敗 教 故 放 ^支 支 ^支 攝 撰 摩 損 提 推 捨 採 掘 挫
↓ 數 部 ↓ 攝

114 114 113 113 113 113 113 113 112 112 112 112 112 112 112 112 112

時 昼 星 是 明 易 早 日 ^日 既 既 ^无 於 ^方 斬 斧 ^斤 數
↓ 晝 部 ↓ 既 部 (无) 部 部 部

116 116 115 115 115 115 115 115 115 114 114 114 114 114

来 杖 未 本 木 ^木 服 有 月 ^月 會 替 最 更 曲 ^白 暫 智 晝
部 部 部

119 119 119 119 119 118 118 118 118 117 117 117 117 117 117 117 117

大本山總持寺藏佛遺教經漢字索引

此 正 止 ^止部 歡 歡 _歡 欺 欲 欠 _缺 (_{缶部}) ^欠部 樹 樓 樂 樂 樓 _樓 樂 _樂 植 根 枯 果

121 121 121 121 121 120 120 120 120 120 119 119 119 119

水 ^水 (_水) _部 民 ^氏部 比 ^比部 毒 ^母部 毀 殺 ^殳部 殃 死 ^歹部 歷 步

123 123 122 122 122 122 122 122 121 121

渴 湯 滅 清 深 渴 _渴 流 湍 消 淨 活 海 法 波 泥 治 況 沒 _澤 沢 決 汝 求

126 126 126 126 126 126 126 126 125 125 125 125 125 124 124 124 124 123 123

尔 ^爻部 爲 ^爪 (_爪) _部 燈 熱 煩 照 無 然 燒 為 火 ^火 (_火) _部 澤 漏 滅 溺

130 129 129 129 129 129 127 127 127 127 127 127 127 126 126

獸 獨 獸 _獸 猿 猶 猴 猛 獨 _獨 狂 犯 ^犬 (_犬) _部 牽 牧 物 牢 牢 牛 ^牛 (_牛) _部

131 131 131 131 131 130 130 130 130 130 130 130 130 130

五画

當 略 異 畔 畜 畏 田 ^田部 生 ^生部 甚 甘 ^甘部 玠 珍 ^珍部 玉(王)部

133 132 132 132 132 132 132 132 132 131 131 131

直 ^目部 益 盈 ^皿部 皆 白 ^白部 癡 瘕 痴 ^癡部 病 疾 疴 ^疴部 疑 ^疋部

135 135 135 134 134 134 134 134 134 134 134

禍 禪 禍 ^禍部 禁 示 ^{示(示)}部 磨 破 石 ^石部 知 ^矢部 瞋 睡 眼 眠 真 相 省

138 137 137 137 137 137 136 136 136 136 136 135 135

竭 竟 ^立部 穿 空 究 ^穴部 穩 積 穩 稼 稱 種 秦 ^禾部 禽 ^宀部 禪

139 139 139 139 138 138 138 138 138 138 138 138

六画

緣 經 結 累 終 經 ^糸部 精 ^米部 籌 算 ^算部 節 筭 等 第 ^竹部 端

141 141 141 141 141 140 140 140 140 139 139 139

者老 [Ⓐ]老 _(老)部 習 [Ⓐ]羽部 義着 [Ⓐ]羊部 羅罵置罪 [Ⓐ]网 _(罒)部 缺 [Ⓐ]缶部 縛縱

142 142 142 142 142 142 142 141 141 141 141 141

自 [Ⓐ]自部 卧臥 _臥 [Ⓐ]臣部 脱能脆肉 [Ⓐ]肉 _(月)部 聲聞聖耻 [Ⓐ]耳部 而 [Ⓐ]而部

145 145 145 144 144 144 144 144 144 144 143

苗若苦 [Ⓐ]艸 _(艹)部 色 [Ⓐ]色部 良 [Ⓐ]良部 船船般 [Ⓐ]舟部 與 [Ⓐ]白 _(白)部 致 [Ⓐ]至部

148 147 146 146 146 146 146 146 146

衆 [Ⓐ]血部 蜜蜂蛇虻虻 _虻 [Ⓐ]虫部 處虛 [Ⓐ]虍部 藥藥葳華莊華莊草 _藥 _華 _莊

149 149 149 149 149 149 148 148 148 148 148 148

[Ⓐ]角部 觀 _觀 [Ⓐ]覲 _覲 親視見 [Ⓐ]見部 **七画** 要 [Ⓐ]衤 _(衤)部 被衣 [Ⓐ]衣 _(衤)部 術行 [Ⓐ]行部

151 151 151 150 150 150 150 150 150

護識警諦論詔諸說誦語誑誨誠訊訖計言言部觸觸解
↓護 ↓譯 ↓觸

153 153 153 153 153 152 152 152 152 152 152 152 151 151 151 151 151

趣越起走賣質賊質貴貧販貪財負象豕護譯警
↓ ↓ ↓

155 155 155 155 155 155 155 155 154 154 154 154 154 154 154

辨辛轡轉輪輕輕轉車身躑躍躁蹕跋足足部
↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓

157 157 157 157 156 156 156 156 156 156

遠遠違違道道達達遇遇過過逸進進逸通通迦足部辦
↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓

159 159 158 158 158 158 158 157 157 157 157

鑽鐵鎧鐵鈎金八画量重里釋积采醫西避避
↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓

160 160 160 160 159 159 159 159 159 159

隨	隱 ↓ 隱	隨 ↓ 隨	陳	陣	除	降	陁 ↓ 陁	陀	阿	防	𦰩 (𦰪) 部	闍	閑	間	門 部	長	長 部	鑽 ↓ 鑽
162			161	161	161	161	161		161	161		161	160	160		160		

非	非 部	靜	青 部	靄	露	霹	電	雲	雨 部	難	離	雙	難 ↓ 難	雖	集	佳 部	隱
163		163		163	163	163	163	163		162	162	162		162	162		162

	香	香 部	餘	養	飾	飲	飢	食	食 (食·食) 部	顯	顯 ↓ 顯	頭	預	順	須	頁 部	九 画
	164		164	164	164	164	164	164		164		164	164	164	163		

	黑	黑 (黑) 部	十二 画	鳩	鳥	鳥 部	十一 画	鬧	門 部	騰	馬	馬 部	十 画
	165			165	165			165		165	165		

一部

-1 【一】 1

不得販賣貿易安置田宅畜養人民奴婢畜生一切種植

當知戒為第一安穩功德之所住處

苦止一卅

制之一處

無以睡眠因緣令一生空過無所得也

最為第一

一切病者之良藥也

常當一心捨諸放逸如離怨賊

一何疾哉

若我住卅一切

常當一心勤求出○離

一切世間動不動法

-2 【下】 3

若在樹下閑處靜室

-2 【三】 3

姚秦三藏法師

如是三唱

-2 【上】 3

雖卧地上

若天上人間皆悉已度

-2 【与】 3 ↓ 白8 【與】 14 を見よ。

-2 【不】 4 ↓ *001

不得販賣貿易安置田宅畜養人民奴婢畜生一切種植

不得

皆所不應

不得

皆不應作

不得包藏瘡痍顯異惑衆

不應畜積

皆不得生

譬如牧牛之人執杖視之不令縱逸犯人苗稼

非唯五欲將無崖畔不可

亦如惡馬不以轡制將當牽人墜於坑塹

不可不慎

不可不慎

1	5	6	6	6	6	5	5	3	2	2	2	1	1
2	20	24	23	13	10	17	9	1	20	11	3	21	10
3	1	5	16	13	1	11	4	4	6	11	9	15	4

2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	6	4	5
4	4	2	1	24	21	16	15	14	13	13	15	5	25
8	6	8	17	14	5	16	11	17	11	3	15	17	7

智者制而不隨	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2
不令縱逸	4	5	5	5	5	3	1	14	11	9	8	7	25	22	17	15	11	9	5	4
皆亦不久見其磨滅	16	15	15	15	5	11	15	10	14	16	16	1	14	5	3	15	5	15	5	16
譬如有人手執蜜器動轉輕躁但觀於蜜不見深坑																				
無事不辦																				
如蜂採華但取其味不損色香																				
譬如智者籌量牛力所堪多少不令過分以竭其力																				
安可睡眠不自警悟																				
不出而眠是無慙人也																				
所不能及																				
若其不能歡喜忍受惡罵之毒如飲甘露者																				
不名入道智慧人也																				
人不喜見																				
甚不可也																				
亦復不爲諸根所牽																				
常無不足																				
不知足者																				
亦不稱意																				
不知足者																				
不知足者																				
譬如老象溺泥不能自出																				
無如不忘记																				

若有不忘记者	4	4	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4
則不能入	21	21	21	21	21	21	21	21	23	23	22	15	6	6	6	6	23	23	21	21
不爲所害	3	3	3	3	3	3	3	3	11	11	11	17	15	15	15	15	11	11	12	3
是名不忘记																				
心則不散																				
令不漏失																				
不令有失																				
若不尔者																				
是名不戲論																				
服與不服																				
聞之不行																				
無得懷疑不求決也																				
不可令異																				
不可令樂																				
會而不離																				
終不可得																				
常在而不滅也																				
如殺怨賊而不歡喜																				
一切世間動不動法																				
皆是敗壞不安之相																				

-4
【丘】5
◇*002

汝等比丘 汝等比丘 汝等比丘 汝等比丘 汝等比丘 汝等比丘 汝等比丘 汝等比丘 汝等比丘 汝等比丘 汝等比丘 汝等比丘 比丘 比丘 比丘 比丘 比丘 比丘 比丘 比丘 比丘 汝等是諸比丘

6	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	2	2	2	2	1	1	1
5	17	14	13	5	25	20	16	10	4	23	20	16	5	1	18	15	13	12	23	19	6	
15	4	7	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	17	4	8	4	3	4	9	11	

汝等比丘 汝等比丘 且止勿得復語 且止勿得復語 世皆無常 世皆無常 若我住世 參預世事 苦止一世 五根賊禍殃及累世爲害 當念無常之火燒諸世間早求自度勿睡眠也 今世後世 今世後世 尚非世俗白衣所宜 世間縛着 能知世間生滅法相 大悲世尊所說利益 尔時世尊

⁴
【世】 5 ⇓ *004 ↓ ⁴
【世】 5 をも見よ。

⁴
【世】 5 ⇓ *003 ↓ ⁴
【世】 5 をも見よ。

5	5	5	4	3	3	3	2	2	2	1	1			6		6				6	6
25	18	1	14	18	11	11	21	4	3	13	8			18		25				23	13
3	6	2	3	9	8	6	5	1	10	15	11			11		6				13	4

世尊

世尊是諸比丘

世尊滅度

世尊

若我住世一劫

世間世如是

世實危脆

一切世間動不動法

丨 部

¹³【中】₄

是時中夜寂然無聲

中夜誦經以自消息

譬如清冷雲中而有霹靂起火非所應也

雖入五欲賊中

是則於我法中

若空澤中

於四諦中

於此衆中

衆中皆悉

、 部

²【之】₃

略說持戒之相

戒是正順解脫之本故

當知戒爲第一安穩功德之所住處

譬如牧牛之人執杖視之不令縱逸犯人苗稼

譬如牧牛之人執杖視之不令縱逸犯人苗稼

持之如賊

假令縱之

心之可畏甚於毒蛇

當急挫之無令放逸

制之一處

當念無常之火燒諸世間早求自度勿睡眠也

當以持戒之鉤早屏除之

當以持戒之鉤早屏除之

慚耻之服

有愧之人

忍之爲德

若其不能歡喜忍受惡罵之毒如飲甘露者

瞋恚之害

出家行道無欲之人而

6	6	6	5	5	4	3	2	1	6	6	6	6	6	6	6	6
10	6	6	19	6	23	15	19	5	24	20	19	13	11	9	5	1
14	10	2	14	9	10	6	8	11	7	9	6	12	6	14	10	17

3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1
14	10	9	7	3	25	24	24	21	11	10	7	5	5	24	24	22	17	17
8	11	7	8	3	12	9	4	1	10	13	4	12	2	13	8	3	17	9

當疾滅之
 出家入道之人
 諂曲之心
 入道之人
 多欲之人
 少欲之人
 少欲之人
 知足之人
 知足之法
 即是富樂安隱之處
 知足之人
 知足之人
 爲知足者之所憐愍
 静處之人
 譬如大樹衆鳥集之則有枯折之患
 譬如大樹衆鳥集之則有枯折之患
 若行者之心數數懈廢
 譬如防水之家善治堤塘
 一切病者之良藥也
 伐煩惱樹之利斧也
 若人有智慧之照
 唯當善滅戲論之患
 但當勤而行之

5 5 5 5 5 5 4 4 4 4 4 4 4 4 3 3 3 3 3 3 3 3
 19 15 11 9 9 2 18 14 13 11 8 7 5 5 4 25 24 23 21 20 19 18
 6 13 5 16 8 15 1 1 13 6 13 10 12 8 17 16 4 9 14 7 4 2

常當自勉精進修之
 聞之不行
 可疾問之
 滅苦之道
 展轉行之
 此是應捨罪惡之物
 得除滅之
 皆是敗壞不安之相
 是我最後之所教誨
 此五根者心爲其主
 乃可安眠
 乃可名爲有力大人
 皆亦不久見其磨滅
 若我久住

6 2 3 2 2 7 6 6 6 6 6 6 5 5 5
 15 5 8 24 6 1 25 23 21 17 4 24 23 21
 3 16 6 14 11 7 2 1 14 11 17 9 4 4

乙²【及】3 ⇩*007

及諸財寶皆當遠離

得生諸禪定及滅苦智慧

五根賊禍殃及累世爲害

乙部

乙²【乞】3

以乞自活

自降其心而行乞也

乙²【也】3

無異此也

非唯五欲將無崖畔不可制也

未足喻也

無以睡眠因緣令一生空過無所得也

當念無常之火燒諸世間早求自度勿睡眠也

不出而眠是無慙人也

無相異也

不名入道智慧人也

甚不可也

譬如清冷雲中而有霹靂起火非所應也

3	3	3	3	2	2	2	2	2	1	3	3	2	1	1
15	14	10	4	25	21	20	8	2	8	19	17	3	19	10
16	17	4	3	9	14	13	5	3	15	16	5	16	1	8

自降其心而行乞也

無所名也

堅牢船也

亦是無明黑闇大明燈也

一切病者之良藥也

伐煩惱樹之利斧也

雖是肉眼而是明見人也

非醫咎也

非導過也

無得懷疑不求決也

常在而不滅也

乙⁶【乱】7 ⇩ 乙¹²【亂】13を見よ。

乙¹²【亂】13 ⇩*008

其心則亂

當急捨離亂心戲論

了部

了¹【了】2

了達四聖諦義

6				5	5					6	5	5	5	5	5	5	5	3		
10				14	13					18	24	23	22	11	10	9	9	8	7	19
17				12	13					6	17	10	11	16	2	11	3	10	12	17

17 【事】8 ↓*009

參預世事
趣得供事
縱此心者喪人善事
無事不辦
觸事有餘
則事無難者

1 1
13 16
16 11
10 13

二 部

22 【五】4

當制五根勿令放逸入於五欲
當制五根勿令放逸入於五欲
若縱五根
非唯五欲將無崖畔不可制也
五根賊禍殃及累世為害
此五根者心為其主
常為五欲所牽
雖入五欲賊中

1 1
23 24
1 1
7 2
2 11
2 3
1 11
4 5
23 7

一 部

14 【亦】6

亦如惡馬不以轡制將當牽人墜於坑塢
皆亦不久見其磨滅
比丘亦尔
初夜後夜亦無有廢
亦當護口勿出惡言
苦惱亦多
亦復不為諸根所牽
亦不稱意
行者亦尔
亦是無明黑闇大明燈也
會亦當滅
皆亦已作得度因緣

2 2
2 5
2 15
4 14
2 23
3 6
4 1
4 9
3 17
3 4
3 4
6 13
6 9
6 11
6 16

人 (一) 部

10 【人】2 ↓*010

如闇遇明貧人得寶
不得販賣貿易安置田宅畜養人民奴婢畜生一切種植
結好貴人
若人能持淨戒
譬如牧牛之人執杖視之不令縱逸犯人苗稼

1 1
24 20
9 2
1 14
1 9
1 15
1 14

譬如牧牛之人執杖視之不令縱逸犯人苗稼
 亦如惡馬不以轡制將當牽人墜於坑堦
 譬如有人手執蜜器動轉輕躁但觀於蜜不見深坑
 縱此心者喪人善事
 受人供養
 常伺殺人
 不出而眠是無慙人也
 能制人非法
 有愧之人
 若有人來節節支解
 乃可名爲有力大人
 不名入道智慧人也
 人不喜見
 非行道人
 出家行道無欲之人而
 出家人道之人
 入道之○人 ⇩*011
 多欲之人
 少欲之人
 少欲之人
 則無諂曲以求人意
 知足之人

4 4 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 2 2 2 2 2 2 2 2
 5 1 25 24 23 21 19 14 13 11 10 8 5 3 1 25 22 15 11 8 2 1
 13 7 17 5 10 14 5 9 10 9 3 13 7 4 11 8 5 12 6 9 15 2
 右下

知足之人
 静處之人
 既非道人
 若人有智慧之照
 雖是肉眼而是明見人也
 又如善導示人善道
 人無問者
 自利利人法
 若天上人間皆悉已度
 人2【今】4 ⇩*012
 今世後世
 自今已後
 我今得滅
 人2【什】4
 鳩摩羅什譯
 人2【仏】4
 ↓
 人5【佛】7を見よ。
 人3【以】5
 是以

1
 21
 9
 1
 2
 10
 6
 21
 1
 6
 17
 1
 3
 11
 5
 6
 14
 25
 14
 13
 9
 5
 5
 22
 11
 11
 1
 5
 5
 11
 7
 4
 4
 7
 11

亦如惡馬不以轡制將當牽人墜於坑塹
以除飢渴

譬如智者籌量牛力所堪多少不令過分以竭其力

中夜誦經以自消息

無以睡眠因緣令一生空過無所得也

當以持戒之鉤早屏除之

所以者何

當自摩頭以捨飾好着壞色衣者

以乞自活

宜應端心以質直爲本

則無諂曲以求人意

當以聞思修慧而自增益

皆以究竟

所以者何

以大悲心

當勤精進早求解脫以智慧明滅諸癡闇

人3 【仙】5 ♡*013

仙藥

人3 【他】5

當捨己衆他衆

4	1	6	6	5	5	5	4	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2
12	14	20	12	25	18	10	1	22	17	16	10	24	19	19	17	14	2
5	6	1	1	14	13	8	5	10	4	9	6	1	17	12	9	8	9

人3 【令】5

勿令毀缺

當制五根勿令放逸入於五欲

譬如牧牛之人執杖視之不令縱逸犯人苗稼

不令縱逸

假令縱之

當急挫之無令放逸

譬如智者籌量牛力所堪多少不令過分以竭其力

無令失時

無以睡眠因緣令一生空過無所得也

當自攝心無令瞋恨

常當防護勿令得入

令不漏失

不令有失

勿令忘失

月可令熱日可令冷

月可令熱日可令冷

不可令異

不可令樂

欲令此諸大衆皆得堅固

人4 【仮】6

↓ 人9 【假】11を見よ。

6	6	6	6	6	5	5	5	3	3	2	2	2	2	2	1	1	1
11	3	2	2	2	20	6	3	12	6	20	18	17	10	5	24	23	19
9	9	16	8	4	11	1	17	9	1	5	14	6	15	10	15	14	15

人4 【會】6 ↓ 曰9 【會】13を見よ。

人4 【仰】6 ⇩*014

仰觀星宿

人4 【伐】6 ⇩*015

斬伐草木

伐煩惱樹之利斧也

人4 【伏】6

當勤精進折伏汝心

人5 【何】7

所以者何

何況

何況

所以者何

一何疾哉

何有智者

人5 【作】7

皆不應作

1	6	6	5	3	3	3	2	5	1	1
15	22	10	25	25	18	10	12	9	11	12
2	11	2	16	5	15	8	9	12	6	4

若有所作未辦者

若有所作已辦已度苦海者

但作是念

皆亦已作得度因緣

人5 【伺】7

常伺殺人

人5 【住】7 ⇩*016

a

若我住卍

若我住卍一切

b

當知戒爲第一安穩功德之所住處

已能住戒

若我久住

人5 【但】7

譬如有人手執蜜器動轉輕躁但觀於蜜不見深坑

如蜂採華但取其味不損色香

諂曲但爲欺誑

但當勤而行之

5	3	2	2	6	1	1	6	1	2	6	6	6	6
19	21	14	9	15	23	22	13	8	22	16	9	9	6
1	8	16	1	4	7	5	11	10	3	12	11	2	14

但作是念

6
9
10

趣得供事

受人供養

2 1
15 16
13 14

人5 【余】7 ↓ 食7 【餘】16を見よ。

人5 【佛】7 ⇨*017

佛垂般涅槃略說教誡經

釋迦牟尼佛

白佛言

佛說四諦

佛說苦諦實苦

見佛滅度

聞佛所說

佛垂般涅槃略說教誡經

人8 【修】10 ⇨*021

晝則勤心修習善法

直尔少欲尚應修習

常當精勤修習諸定

善修禪定

當以聞思修慧而自增益

常當自勉精進修之

人6 【依】8 ⇨*018

依因此戒

人9 【假】11 ⇨*022

假令縱之

假名爲身

人6 【使】8 ⇨*019

通致使命

儿部

人6 【供】8 ⇨*020

於四供養

儿4 【光】6

譬如夜見電光即得見道

1
16
6

6
8
11

1
14
2

1
18
9

7 6 6 6 6 6 1 1

3 7 7 3 2 1 3 1

1 16 2 1 10 15 5 1

6 2
21 5
16 9

5 5 5 5 3 2
21 10 3 1 25 18
3 11 14 16 3 9

人7 【俗】9

尚非世俗白衣所宜

3
18
10

入 部

入⁰【入】2

將入涅槃

當制五根勿令放逸入於五欲

不名入道智慧人也

常當防護勿令得入

出家入道之人

入道之^人。

則不能入

雖入五欲賊中

譬如着鎧入陣則無所畏

若有初入法者

八 部

八⁴【共】6 ⇨ *023

所共敬重

八⁶【其】8

皆亦不久見其磨滅

此五根者心爲其主

2	2	4	6	4	4	4	3	3	3	3	1	1
6	6	11	7	24	23	21	21	19	12	9	23	5
10	1	13	12	2	6	14	12	2	11	16	17	6

如蜂採華但取其味不損色香

無得多求壞其善心

譬如智者籌量牛力所堪多少不令過分以竭其力

若其不能歡喜忍受惡罵之毒如飲甘露者

自降其心而行乞也

宜應質直其心

其心則亂

其未度者

八⁶【具】8

皆具足

ㄚ 部

ㄚ⁵【冷】7

譬如清冷雲中而有霹靂起火非所應也

月可令熱日可令冷

几 部

几³【処】5

↓ 几⁵【處】11を見よ。

6	3	6	6	5	3	3	3	2	2	2
2	15	14	16	13	21	19	8	17	16	15
9	4	16	5	10	2	12	15	11	7	1

口部

口²【𠵱】4 ⇨*024

占相吉凶

1
12
3

口³【𠵱】5 ⇨*025

a

譬如老象湯泥不能自出

雖復出家

常當一心勤求出離道

b

睡地既出

不出而眠是無慙人也

亦當護口勿出惡言

出家行道無欲之人而

出家入道之人

刀(刂)部

刀²【切】4

不得販賣貿易安置田宅畜養人民奴婢畜生一切種植

一切病者之良藥也

5 1
9 10
5 5

一切世間動不動法

刀²【分】4 ⇨*026

譬如智者籌量牛力所堪多少不令過分以竭其力

2
17
8

刀⁵【初】7 ⇨*027

初轉法輪

初夜後夜亦無有廢

若有初入法者

6 2 1
7 18 3
11 17 6

刀⁵【利】7 ⇨*028

若縱恚心則自妨道失功德利

多求利故

伐煩惱樹之利斧也

大悲世尊所說利益

自利利人法

自利利人法

6 6 5 5 3 3
14 14 18 9 23 7
12 11 10 17 13 6

刀⁵【劫】7 ⇨*029

劫功德賊

若我住世一劫

6 3
13 12
14 12

刀6 【制】8

當制五根勿令放逸入於五欲
非唯五欲將無崖畔不可制也

亦如惡馬不以轡制將當牽人墜於坑塢

智者制而不隨

當好制心

譬如狂象無鉤猿猴得樹騰躍踣躑難可禁制

制之一處

能制人非法

無法自制

刀7 【則】9

當知此則是汝大師

此則

是則能有善法

晝則勤心修習善法

則失諸功德

則有善法

若縱恚心則自妨道失功德利

則破諸善法

則無是處

則無此患

3	3	3	3	3	3	2	1	1	1	3	3	2	2	2	2	2	1
24	21	10	6	3	2	18	20	17	8	13	1	11	10	7	4	2	23
10	15	13	16	5	13	6	8	4	3	14	10	9	9	1	14	11	10

則無諂曲以求人意

心則坦然

則有涅槃

則受衆惱

譬如大樹衆鳥集之則有枯折之患

則事無難者

譬如小水常流則能穿石

則不能入

則失諸功德

譬如着鎧入陣則無所畏

心則在定

心則不散

則無貪着

是則於我法中

則是度老病死海

其心則亂

則是如來法身

力 部

力0 【力】2

譬如智者壽量牛力所堪多少不令過分以竭其力

2						6	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4
16						17	13	7	6	5	2	25	24	22	21	17	13
17						12	12	17	5	9	8	10	4	12	11	11	9

譬如智者籌量牛力所堪多少不令過分以竭其力

乃可名為有力大人

若念力堅強

力3 【功】5

諸善功德

當知戒為第一安穩功德之所住處

則失諸功德

若縱恚心則自妨道失功德利

劫功德賊

能生諸功德

則失諸功德

於諸功德

力5 【劫】7 ↓ 力5 【劫】7 を見よ。

力5 【助】7

求善護助

力8 【勉】10 ⇓ *030

常當自勉精進修之

力9 【動】11 ⇓ *031

譬如有人手執蜜器動轉輕躁但觀於蜜不見深坑

一切世間動不動法

一切世間動不動法

力10 【勤】12 ↓ 力11 【勤】13 を見よ。

力11 【勤】13 ⇓ *032

a

晝則勤心修習善法

b

當勤精進折伏汝心

若勤精進

當勤精進

常當精勤修習諸定

但當勤而行之

當勤精進早求解脫以智慧明滅諸癡闇

常當一心勤求出離道

5	4	5	4	3	3	3	3	1	1	4	3	2
20	20	17	22	25	12	7	2	22	21	23	8	17
17	12	7	15	12	13	4	16	1	2	2	11	12
	6	4	4	2						6	6	2
	24	19	17	12						24	24	8
	1	11	6	5						11	9	14

勹部

勹²【勿】⁴

勿令毀缺

當制五根勿令放逸入於五欲

於好於惡勿生增減

當念無常之火燒諸世間早求自度勿睡眠也

常當慚耻勿得暫替

亦當護口勿出惡言

常當防護勿令得入

勿令忘失

勿懷悲惱

勿懷憂惱

且止勿得復語

勹³【包】⁵ ⇨*033

不得包藏瘕疵顯異惑衆

匚部

匚⁵【医】⁷ ↓ 酉¹¹【醫】¹⁸を見よ。

1	6	6	6	5	3	3	3	2	2	1	1
15	25	19	13	20	12	6	2	21	13	23	19
13	8	2	5	10	8	8	5	11	17	13	14

卜部

卜³【占】⁵

占相吉凶

卩(巳)部

卩⁴【危】⁶ ⇨*034

世實危脆

卩⁵【即】⁷ ⇨*035

即是富樂安隱之處

即是因滅

即皆得度

譬如夜見電光即得見道

凵部

凵⁷【厚】⁹ ⇨*036

親厚

1	6	6	6	4		6				1
14	8	8	4	5		20				11
13	12	2	6	2		11				17

△ 部

△9 【參】11 ⇩*037

參預世事

1
13
13

又 部

又0 【又】2 ⇩*038

又非白衣

又如善導示人善道

5 5
22 7
12 5

又1 【又】3 ⇩*039

當尊重瓊敬波羅提木叉

名波羅提木叉

1 1
18 7
8 8

又2 【双】4 ↓ 佳10 【雙】18を見よ。

又6 【取】8

如蜂採華但取其味不損色香

2
14
17

又6 【受】8

受諸飲食

2
13
5

受人供養

若其不能歡喜忍受惡罵之毒如飲甘露者

白衣受欲

則受衆惱

念所受法

5 4 3 3 2
20 13 13 9 15
8 3 5 4 11

口 部 (くちへん)

口0 【口】

亦當護口勿出惡言

3
6
7

口2 【可】5

非唯五欲將無崖畔不可制也

不可不慎

心之可畏甚於毒蛇

譬如狂象無鉤猿猴得樹騰躍踔躑難可禁制

安可睡眠不自警悟

乃可安眠

乃可名爲有力大人

瞋猶可恕

甚不可也

譬如鑽火未熱而息雖欲得火火難可得

4 3 3 3 2 2 2 2 2
19 14 13 8 24 22 10 7 4 2
4 16 17 7 15 11 7 5 7 1

是名遠離	是名知足	是名少欲	壞好名聞	不名入道智慧人也	乃可名爲有力大人	名波羅提木叉	【名】6	⇩*041	合和湯藥	【合】6	占相吉凶	【吉】6	⇩*040	應可度者	終不可得	不可令樂	不可令異	月可令熱日可令冷	月可令熱日可令冷	可疾問之
4	4	4	3	3	3	1			1		1			6	6	6	6	6	6	5
15	9	3	11	9	8	18			11		12			15	14	3	2	2	2	24
5	1	12	3	15	8	3			13		2			10	8	8	15	7	3	6

合和湯藥	【和】8	如蜂採華但取其味不損色香	【味】8	通致使命	【命】8	呪術	【呪】8	非醫咎也	【咎】8	⇩*042	假名爲身	是名不戲論	無所名也	是名爲定	是名不忘念	是名精進
1		2		1		1		5			6	5	5	5	4	4
11		15		14		14		22			21	15	7	4	24	19
14		2		3		4		10			17	16	11	5	9	7

□6 【哉】9 ⇩*043

一何疾哉

6 10 4

□8 【唱】11

如是三唱

5 25 8

□8 【問】11

可疾問之
人無問者

5 25 11
5 24 8

□8 【唯】11 ⇩*044

非唯五欲將無崖畔不可制也
唯當善滅戲論之患

5 15 7
2 1 10

□9 【喜】12 ⇩*045

若其不能歡喜忍受惡罵之毒如飲甘露者
人不喜見
如殺怨賊而不歡喜

6 23 9
3 11 11
3 9 2

□9 【善】12 ⇩*046

是則能有善法
諸善功德

1 21 1
1 20 11

縱此心者喪人善事

無得多求壞其善心

晝則勤心修習善法

則有善法

則破諸善法

求善知識

求善護助

譬如防水之家善治堤塘

善修禪定

唯當善滅戲論之患

又如善導示人善道

又如善導示人善道

□9 【喪】12

縱此心者喪人善事

2 11 5

□9 【喻】12

未足喻也

2 8 4

□12 【器】15 ⇩*047
□12 【器】15 を見よ。

□12 【器】15 ⇩*047

譬如有人手執蜜器動轉輕躁但觀於蜜不見深坑
執持應器

3 2
17 8
3 13

□¹⁷【嚴】20 ⇩*048

於諸莊嚴

2
25
17

□ 部 (くにがまえ)

□²【四】5

於四供養

若於苦等四諦有所疑者

佛說四諦

於四諦中

了達四聖諦義

1
16
5

5
23
17

6
2
12

6
5
17

□³【因】6

依因此戒

無以睡眠因緣令一生空過無所得也

集真是因

更無異因

即是因滅

因滅故果滅

1
18
10

2
20
3

6
3
14

6
4
1

6
4
8

6
4
10

皆亦已作得度因緣

6
16
15

□⁵【固】8 ⇩*049

欲令此諸大衆皆得堅固

6
11
17

土 部

±⁰【土】3

墾土掘地

1
11
10

±³【在】6

睡在汝心

譬如黑虻在汝室眠

常當攝念在心

心則在定

心在定故

若在樹下閑處靜室

常在而不滅也

没在老病生死大海

2
23
6

2
23
13

4
22
6

4
25
11

4
25
11

5
19
16

6
18
2

6
18
4

6
19
2

1
11
12

1
11
12

±³【地】6

墾土掘地

1
11
12

雖卧地上

4
5
16

譬如有人手執蜜器動轉輕躁但觀於蜜不見深坑

2
8
11

±4【坑】7 ⇨*050

執持應器

3
下16
欄外17

a 譬如有人手執蜜器動轉輕躁但觀於蜜不見深坑

2
9
8

b

±8【堂】11

如避火坑

1
11
2

雖處天堂

4
6
12

c

亦如惡馬不以轡制將當牽人墜於坑埒

2
3
1

±8【埒】11 ⇨*053
亦如惡馬不以轡制將當牽人墜於坑埒

2
3
2

±7【垂】8 ⇨*051

a 佛垂般涅槃略說教誡經

1
1
2

±9【堪】12 ⇨*054
譬如智者籌量牛力所堪多少不令過分以竭其力

2
17
2

b

佛垂般涅槃略說教誡經

7
3
2

±9【堅】12 ⇨*055
若念力堅強

堅牢船也

4
23
3

±5【坦】8

心則坦然

4
2
6

欲令此諸大衆皆得堅固

6
11
16

±8【執】11 ⇨*052

a 譬如牧牛之人執杖視之不令縱逸犯人苗稼

1
24
10

±9【堤】12 ⇨*056
譬如防水之家善治堤塘

5
3
2

中夜誦經以自消息
譬如夜見電光即得見道

大部

大0 【大】3 ⇩ *064

當知此則是汝大師
惡獸怨賊大火越逸
乃可名爲有力大人
譬如大樹衆鳥集之則有枯折之患
亦是無明黑闇大明燈也
大悲卅尊所說利益
欲令此諸大衆皆得堅固
以大悲心
沒在老病生死大海

大1 【天】4 ⇩ *065

雖處天堂
帝釋諸天
若天上人間皆悉已度

大2 【失】5

6 2
8 19
8 9

6 6 6 5 5 4 3 2 1
22 12 11 18 8 13 8 7 8
9 2 12 4 17 8 12 15 6

6 4 4
15 11 6
14 11 11

無令失時

則失諸功德

若縱恚心則自妨道失功德利

若失念者

則失諸功德

令不漏失

不令有失

勿令忘失

女部

女2 【奴】5

不得販賣貿易安置田宅畜養人民奴婢畜生一切種植

女3 【好】6

結好貴人

當好制心

於好於惡勿生增減

壞好名聞

當自摩頭以捨飾好看壞色衣者

5 5 5 4 4 3 3 2
20 6 4 22 22 7 2 18
13 3 3 13 9 3 14 15

1
9
17

3 3 2 2 1
16 11 13 6 14
12 2 14 17 9

女3 【如】6

不得販賣貿易安置田宅畜養人民奴婢畜生一切種植

1
10
1

〔宅〕^{六3} 6

不得販賣貿易安置田宅畜養人民奴婢畜生一切種植

1
9
12

女^九 〔媾〕¹² ⇩ *066

媾慢

1
14
14

〔宜〕^{六5} 8

尚非世俗白衣所宜

3
18
14

子部

宜應質直其心

3
20
15

宜應端心以質直爲本

3
22
6

子^〇 〔子〕³

爲諸弟子

1
6
3

〔実〕^{六5} 8

⇩^{六11} 〔實〕¹⁴ を見よ。

我諸弟子

6
17
7

〔定〕^{六5} 8 ⇩ *067

宀部

得生諸禪定及滅苦智慧

1
18
17

心則在定

4
25
12

心在定故

4
25
15

常當精勤修習諸定

5
2
2

若得定者

5
2
5

善修禪定

5
3
16

是名爲定

5
4
7

決定無疑

6
6
4

即是富樂安隱之處

猶爲安樂

欲求寂靜無爲安樂

皆是敗壞不安之相

〔宝〕^{六5} 8

⇩^{六16} 〔寶〕¹⁹ を見よ。

汝若欲得寂滅樂者	欲求寂靜無為安樂	是時中夜寂然無聲	【寂】11	不為所害	瞋恚之害	五根賊禍殃及累世為害	如被賊害	【害】10	雖復出家	譬如防水之家善治堤塘	出家入道之人	出家行道無欲之人而	甚於怨家	【家】10	若在樹下閑處靜室	譬如黑蛭在汝室眠	【室】9	
5	4	1		4	3	2	2		5	5	3	3	2		5	2		
15	10	5		23	10	4	3		13	2	19	14	22		20	23		
3	7	13		14	12	3	6		17	16	1	3	9		5	15		
及諸財寶皆當遠離	如聞遇明貧人得寶	【寶】19	⇨*068	世實危脆	實是真道	佛說苦諦實苦	實智慧者	【實】14	⇨*068	常自省察	時阿菴樓陀觀察衆心而	【察】14	雖富而貧	雖貧而富	即是富樂安隱之處	【富】12	仰觀星宿	【宿】11
1	1			6	6	6	5		6	5		6	4	4	4		1	
10	7			20	5	3	7		1	5		7	7	5			12	
11	16			10	2	5	13		10	16		15	5	4			7	

寸部

寸7【將】10 ↓ 寸8【將】11を見よ。

寸8【將】11 ⇩*070

將入涅槃

非唯五欲將無崖畔不可制也

亦如惡馬不以轡制將當牽人墜於坑塹

時將欲過

寸9【尊】12 ⇩*071

a

大悲世尊所說利益

尔時世尊

世尊

世尊是諸比丘

世尊滅度

世尊

b

當尊重瓊敬波羅提木叉

寸12【導】15 ↓ 寸13【導】16を見よ。

1	6	6	6	6	5	5	6	2	2	1
6	11	9	5	2	25	18	25	2	1	5
17	7	15	11	1	4	7	13	12	13	5

寸13【導】16 ⇩*072

又如善導示人善道

非導過也

小部

小0【小】3

小欲 ⇩*073

譬如小水常流則能穿石

小1【少】4

譬如智者籌量牛力所堪多少不令過分以竭其力

少欲之人

直尔少欲尚應修習

少欲之人

行少欲者

有少欲者

是名少欲

小3【当】6 ↓ 田8【當】13を見よ。

4	4	4	3	3	3	2	4	3	5	5
3	3	2	25	24	24	17	17	25	23	22
13	4	1	14	16	2	4	7	7	8	15

小5 【尚】8

尚非世俗白衣所宜
直尔少欲尚應修習

3 3
25 18
1 7

小7 【窳】10 ⇩*074

時阿窳樓陀觀察衆心而
阿窳樓陀

6 6
10 1
6 6

尸部

尸2 【尼】5

釋迦牟尼佛

1
3
4

尸5 【居】8

當離憤鬧獨處閑居

4
11
3

尸6 【屏】9 ⇩*075

當以持戒之鉤早屏除之

2
24
7

尸7 【展】10

展轉行之

6
17
8

尸8 【屏】11 ⇩ 尸6 【屏】9を見よ。

山部

山0 【山】3 ⇩*076

若於山間

5
19
9

山8 【崖】11

非唯五欲將無崖畔不可制也

2
1
15

己部

己0 【己】3

皆已度訖

已能住戒

若有所作已辦已度苦海者

若有所作已辦已度苦海者

若天上人間皆悉已度

皆亦已作得度因緣

自今已後

6 6 6 6 6 1 1
17 16 16 9 9 23 4
2 11 3 5 3 5 13

己0 【己】3

當捨己衆他衆

4
12
3

巾部

巾⁶【帝】9

帝釋諸天

4
11
8

巾⁷【師】10 ⇩*077

a

當知此則是汝大師

1
8
7

b

姚秦三藏法師

1
2
6

巾⁸【常】11

當念無常之火燒諸世間早求自度勿睡眠也

2
20
17

常伺殺人

2
22
2

常當慚耻勿得暫替

3
2
1

常當防護勿令得入

3
12
4

常無不足

4
2
16

常爲五欲所牽

4
8
3

譬如小水常流則能穿石

4
17
9

常當攝念在心

4
22
2

常當精勤修習諸定

5
5
12

常自省察

5
5
13

常當一心捨諸放逸如離怨賊

5
17
9

常當自勉精進修之

5
20
14

常在而不滅也

6
18
1

世皆無常

6
18
14

常當一心勤求出○離道

6
23
14

广部

广⁶【度】9

度阿若憍陳如

1
3
10

度須跋陀羅

1
4
3

所應度者

1
4
10

皆已度訖

1
4
14

當自端心正念求度

1
15
10

當念無常之火燒諸世間早求自度勿睡眠也

2
21
10

則是度老病死海

5
8
2

見佛滅度

6
7
4

即皆得度

6
8
5

若有所作已辦已度苦海者

6
9
6

世尊滅度

6
9
17

應可度者
 若天上人間皆悉已度
 其未度者
 皆亦已作得度因緣
 我欲滅度

【廢】¹² ↓ 【廢】¹² 15を見よ。

【廢】¹² 15 ⇩ *078
 初夜後夜亦無有廢
 若行者之心數數懈廢

弓 部

【弟】⁴ 7 ⇩ *079
 為諸弟子
 我諸弟子

【強】⁸ 11
 若念力堅強
 無牢強者

6	4	6	1	4	2	7	6	6	6	6
20	23	17	6	18	19	1	16	16	16	15
15	4	6	2	6	7	2	14	7	4	11

【後】⁶ 9 ⇩ *080
 於我滅後
 初夜後夜亦無有廢

b
 最後說法
 今世後世
 無為空死後致有悔
 自今已後
 是我最後之所教誨

【得】⁸ 11
 如閻遇明貧人得寶
 不得販賣貿易安置田宅畜養人民奴婢畜生一切種植
 不得
 不得包藏瘡痍顯異惑眾
 趣得供事
 得生諸禪定及滅苦智慧
 皆不得生

彳 部

1	1	1	1	1	1	1	1	7	6	5	3	1	2	1
21	18	16	15	13	11	9	7	1	17	21	11	3	19	6
6	13	13	12	12	4	4	15	6	3	9	7	17	2	15

譬如狂象無鉤猿猴得樹騰躍踔躑難可禁制
 趣得支身
 無得多求壞其善心
 無以睡眠因緣令一生空過無所得也
 常當慚耻勿得暫替
 常當防護勿令得入
 譬如鑽火未熱而息雖欲得火火難可得
 譬如鑽火未熱而息雖欲得火火難可得
 若得定者
 能得解脫
 猶未得脫
 汝若欲得寂滅樂者
 無得懷疑不求決也
 即皆得度
 譬如夜見電光即得見道
 欲令此諸大眾皆得堅固
 終不可得
 皆亦已作得度因緣
 我今得滅
 得除滅之
 且止勿得復語

6 6 6 6 6 6 6 6 5 5 5 5 5 4 4 3 3 2 2 2 2
 25 22 21 16 14 11 8 8 24 15 14 6 2 19 18 12 2 20 16 14 9
 9 15 2 13 9 15 13 4 11 2 2 11 4 5 17 10 6 12 3 5 17

復【復】12 ⇓*081
 且止勿得復語
 亦復不爲諸根所牽
 雖復出家
 復爲衆說
 復【德】14 ↓ 復【德】15を見よ。
 諸善功德
 當知戒爲第一安穩功德之所住處
 則失諸功德
 若縱恚心則自妨道失功德利
 忍之爲德
 劫功德賊
 能生諸功德
 則失諸功德
 於諸功德

5 4 3 3 3 3 3 1 1 6 5 4 6
 17 22 25 12 7 7 2 22 21 12 13 1 25
 8 16 13 14 10 5 17 2 3 5 15 10 10

心部

心¹⁴【嚴】17 ↓ 心¹⁷【嚴】20を見よ。

心(↑)部

心⁰【心】4

當自端心正念求度
此五根者心爲其主
當好制心
心之可畏甚於毒蛇
縱此心者喪人善事
當勤精進折伏汝心
無得多求壞其善心
晝則勤心修習善法
睡在汝心
當自攝心無令瞋恨
若縱恚心則自妨道失功德利
瞋心甚於猛火
自降其心而行乞也
諂曲之心
宜應質直其心

3 3 3 3 3 3 2 2 2 2 2 2 2 1
21 20 19 11 6 5 23 18 16 12 11 7 7 6 15
3 8 13 16 15 16 8 8 9 11 3 3 2 8 6

宜應端心以質直爲本

心則坦然

若行者之心數數懈廢

常當攝念在心

若攝心者

心則在定

心在定故

心則不散

其心則亂

當急捨離亂心戲論

常當一心捨諸放逸如離怨賊

時阿菟樓陀觀察衆心而

以大悲心

常當一心勤求出離道

心¹【必】5

會必有離

心³【應】7 ↓ 心¹³【應】17を見よ。

心³【忍】7

忍之爲德

3 6 6 6 5 5 5 5 4 4 4 4 4 4 3
7 18 23 12 1 17 14 13 2 25 25 22 18 2 22
7 16 17 4 12 12 13 11 7 13 9 7 7 2 4 9

能行忍者
若其不能歡喜忍受惡罵之毒如飲甘露者

心3 【忍】7 ⇩*083

無如不忘念

若不忘念者

是名不忘念

勿令忘失

3 3
9 8
3 4

惡獸怨賊大火越逸
甚於怨家
常當一心捨諸放逸如離怨賊
如殺怨賊而不歡喜

心5 【急】9 ⇩*086

a 當急捨離亂心戲論

b

當急控之無令放逸

6 5 2 2
23 18 22 7
4 2 8 13

心4 【念】8 ⇩*084

當自端心正念求度

當念無常之火燒諸世間早求自度勿睡眠也

無如不忘念

若不忘念者

常當攝念在心

若失念者

若念力堅強

是名不忘念

念所受法

但作是念

心5 【思】9

思滅苦本

當以聞思修慧而自增益

心6 【志】10

若縱恚心則自妨道失功德利

瞋恚之害

無過瞋恚

懷瞋恚

2 5
10 14
11 9

心5 【怨】9 ⇩*085

6 5 4 4 4 4 4 4 2 1
9 20 24 23 22 22 21 20 20 15
13 6 12 1 10 5 5 17 15 8

心6 【悔】9 ⇩*087

3 3 3 3
14 13 10 6
13 2 10 14

大本山総持寺蔵佛遺教經漢字索引

無為空死後致有悔

心7 【患】11

則無此患

心6 【恨】9

當自攝心無令瞋恨

譬如大樹衆鳥集之則有枯折之患
唯當善滅戲論之患

心6 【恕】10

瞋猶可恕

心7 【悟】10

安可睡眠不自警悟

心6 【息】10

中夜誦經以自消息

心7 【悉】11

衆中皆悉

譬如鑽火未熱而息雖欲得火火難可得

若天上人間皆悉已度

心7 【惡】11 ⇩*088

亦如惡馬不以轡制將當牽人墜於坑塹

心7 【惱】10 ⇩*089 ⇩ 心7 【惱】12をも見よ。

惡獸怨賊大火越逸

於好於惡勿生增減

亦當護口勿出惡言

若其不能歡喜忍受惡罵之毒如飲甘露者

如除惡病

此是應捨罪惡之物

心6 【恥】10 ⇩ 耳4 【耻】10を見よ。

6	6	3	3	2	2	2
21	21	9	6	13	7	2
13	6	5	10	16	11	6

b

苦惱亦多
若欲脱諸苦惱

4	3	6	5	4	4
4	23	13	9	21	13
10	16	8	14	9	5

心8 【悲】12

大悲卍尊所說利益

當有悲感

以大悲心

勿懷悲惱

心8 【惑】12 ⇩*090

不得包藏瘕疵顯異惑衆

心9 【意】13

則無諂曲以求人意

亦不稱意

心9 【惑】13 ⇩*091

當有非惑

心9 【愍】13

爲知足者之所憐愍

心9 【惱】12 ⇩*092

趣自除惱

諸煩惱賊

2	2	4	6	4	4	1	6	6	6	5
21	16	8	7	6	1	16	13	12	7	18
17	1	16	8	16	8	2	7	3	7	5

煩惱毒蛇

勿懷憂惱

心10 【愧】13 ⇩*093

有愧之人

若無愧者

心10 【慎】13

不可不慎

心11 【慧】15 ⇩*094

a

不名入道智慧人也

若有智慧

當勤精進早求解脫以智慧明滅諸癡闇

b

得生諸禪定及滅苦智慧

爲智慧水故

實智慧者

當以聞思修慧而自增益

若人有智慧之照

是爲智慧

5	5	5	5	5	1	6	5	3	2	3	3	6	2
12	11	10	7	3	19	20	5	10	4	3	3	19	23
3	4	12	15	10	5	3	8	2	9	11	2	5	2

不應畜積

譬如清冷雲中而有霹靂起火非所應也

執持應器

宜應質直其心

宜應端心以質直爲本

直尔少欲尚應修習

應可度者

此是應捨罪惡之物

戈部

戈³【我】7 ⇩*102

於我滅後

若我住世

是則於我法中

我如良醫知病說藥

若我住世一切

若我久住

我諸弟子

我今得滅

我欲滅度

是我最後之所教誨

7	6	6	6	6	6	5	5	1	1
1	25	20	17	15	13	21	6	8	6
4	16	17	4	2	10	13	7	9	13

戈³【戒】7 ⇩*103

持淨戒者

略說持戒之相

戒是正順解脫之本故

依因此戒

比丘當持淨戒

若人能持淨戒

若無淨戒

當知戒爲第一安穩功德之所住處

已能住戒

當以持戒之鉤早屏除之

持戒苦行

戈¹¹【戲】15 ⇩ 戈¹³【戲】17を見よ。

戈¹³【戲】17 ⇩*104

若種種戲論

當急捨離亂心戲論

唯當善滅戲論之患

是名不戲論

5	5	5	5
16	15	14	13
1	11	14	8

3	2	1	1	1	1	1	1	1	1
7	24	23	21	20	20	19	18	17	17
12	3	8	12	16	6	13	12	11	8

戶部

戶⁴【所】8 ⇩*105

念所受法	大悲世尊所說利益	無所名也	譬如着鎧入陣則無所畏	不為所害	所共敬重	為知足者之所憐愍	常為五欲所牽	無所憂畏	亦復不為諸根所牽	尚非世俗白衣所宜	譬如清冷雲中而有霹靂起火非所應也	所以者何	所不能及	無以睡眠因緣令一生空過無所得也	譬如智者籌量牛力所堪多少不令過分以竭其力	當知戒為第一安穩功德之所住處	皆所不應	所應度者
5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	2	2	1	1	1
20	18	7	24	23	11	8	8	2	1	18	15	10	7	20	17	22	12	4
7	8	10	6	13	12	14	7	9	15	13	14	5	15	11	1	4	17	8

若於苦等四諦有所疑者
所以者何

若有所作未辦者

聞佛所說

若有所作已辦已度苦海者

更無所益

是我最後之所教誨

手(扌)部

手⁰【手】4

譬如有人手執蜜罽動轉輕躁但觀於蜜不見深坑

手⁴【折】7

當勤精進折伏汝心

譬如大樹眾鳥集之則有枯折之患

手⁶【持】9

持淨戒者

略說持戒之相

比丘當持淨戒

若人能持淨戒

1	1	1	1		4	2		2			7	6	6	6	6	5	5
20	19	17	8		13	12		8			1	15	9	7	6	25	24
4	11	7	16		17	8		10			8	7	1	17	13	13	3

持之如賊

當以持戒之鉤早屏除之

持戒苦行

執持應器

手7
【挫】10

當急挫之無令放逸

手8
【掘】11

墾土掘地

手8
【採】11

如蜂採華但取其味不損色香

手8
【捨】11

當自摩頭以捨飾好着壞色衣者

當捨己衆他衆

當急捨離亂心戲論

常當一心捨諸放逸如離怨賊

此是應捨罪惡之物

手8
【推】11

推步盈虛

手9
【提】12 ↓*106

當尊重瓊敬波羅提木叉

名波羅提木叉

手10
【損】13 ↓*107

如蜂採華但取其味不損色香

手11
【摩】15

鳩摩羅什譯

當自摩頭以捨飾好着壞色衣者

手10
【撰】13 ↓ 手18
【攝】21を見よ。

手18
【攝】21

當自攝心無令瞋恨

常當攝念在心

若攝心者

支
部

1
12
8

1
7
6

1
18
6

2
15
4

2
4

3
16
7

1
2
8

3
16
7

13
↓
21

3
5
15

3
5

4
22
4

4
25
6

支0 【支】4

趣得支身
若有人來節節支解

支(攵)部

支4 【放】8

當制五根勿令放逸入於五欲
當急挫之無令放逸
常當一心捨諸放逸如離怨賊

支5 【故】9 ⇩ *108

戒是正順解脫之本故
是故
是故
是故
是故
是故
為解脫故
是故
是故
多求利故

3	3	3	3	3	2	2	2	1	1	5	2	1	3	2
23	22	20	19	1	12	6	4	19	18	17	10	23	5	14
14	3	14	9	15	1	13	11	7	2	15	16	15	11	6

是故

是故

是故

心在定故

是故

為智慧水故

是故

是故

衆無疑故

因滅故果滅

是故

支7 【教】11 ⇩ *109

a

佛垂般涅槃略說教誡經
是我最後之所教誨

b

佛垂般涅槃略說教誡經

支7 【敗】11

皆是敗壞不安之相

6	7	7	1	6	6	6	5	5	5	5	4	4	4	4
24	3	1	1	18	4	1	14	10	3	1	25	21	16	11
15	8	9	8	8	12	3	5	4	12	9	16	16	15	17

支8 【敬】12

當尊重珍敬波羅提木叉

所共敬重

支8 【散】12

心則不散

支9 【數】13

↓ 支11 【數】15を見よ。

支11 【數】15 ↓ * 110

歷數筭計

若行者之心數數懈廢

若行者之心數數懈廢

斤部

斤4 【斧】8

伐煩惱樹之利斧也

斤7 【斬】11

斬伐草木

1	5	4	4	1	5	4	1
11	10	18	18	12	2	11	7
5	1	4	3	13	10	14	3

方部

方4 【於】8 ↓ * 111

於娑羅雙樹間

於我滅後

於四供養

當制五根勿令放逸入於五欲

亦如惡馬不以轡制將當牽人墜於坑塹

心之可畏甚於毒蛇

譬如有人手執蜜器動轉輕躁但觀於蜜不見深坑

於好於惡勿生增減

於好於惡勿生增減

甚於怨家

於諸莊嚴

瞋心甚於猛火

沒於衆苦

是則於我法中

於諸功德

若於山間

若於苦等四諦有所疑者

於四諦中

於此衆中

6	6	5	5	5	5	4	3	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	
6	5	23	19	17	6	14	12	25	22	13	13	9	7	24	16	6	4	
7	16	14	8	5	6	8	1	14	7	15	13	3	8	17	1	4	12	16

无(无)部

无⁵【既】10 ↓ 无⁷【既】11を見よ。

无⁷【既】11 ⇩ *112

睡虵既出

既非道人

5 2
7 24
1 12

日部

日⁰【日】4

月可令熱日可令冷

6
2
6

日²【早】6

當念無常之火燒諸世間早求自度勿睡眠也

當以持戒之鈎早屏除之

當勤精進早求解脫以智慧明滅諸癡闇

6 2 2
19 24 21
14 6 7

日⁴【易】8 ⇩ *113

不得販賣貿易安置田宅畜養人民奴婢畜生一切種植

1
9
8

日⁴【明】8

自見如是

是故

不出而眠是無慙人也

是故

是故

是則能有善法

是故

戒是正順解脫之本故

當知此則是汝大師

是時中夜寂然無聲

b

是故

是故

是以

a

日⁵【是】9 ⇩ *114

當勤精進早求解脫以智慧明滅諸癡闇

雖是肉眼而是明見人也

亦是無明黑闇大明燈也

亦是無明黑闇大明燈也

如闇遇明貧人得寶

6 5 5 5 1
20 11 9 8 7
4 13 1 14 12

3 3 2 2 2 1 1 1 1 1
17 1 25 11 6 20 19 17 8 5
11 14 5 17 12 7 6 12 4 9

是故
 則無是處
 是故
 是名少欲
 即是富樂安隱之處
 是名知足
 是名遠離
 是故
 是名精進
 是故
 是名不忘念
 是故
 是名爲定
 是則於我法中
 則是度老病死海
 亦是無明黑闇大明燈也
 是故
 雖是肉眼而是明見人也
 雖是肉眼而是明見人也
 是爲智慧
 是故
 是名不戲論

5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 4 4 4 4 4 4 4 4 3 3 3
 15 14 11 11 11 10 8 8 6 4 1 24 21 19 16 15 8 5 3 22 21 20
 15 4 17 12 8 3 12 1 4 4 8 8 15 6 14 4 17 3 11 2 17 13

如是三唱
 集真是因
 即是因滅
 實是眞道
 卅尊是諸比丘
 但作是念
 雖說是語
 則是如來法身
 是故
 卅問問如是
 此是應捨罪惡之物
 皆是敗壞不安之相
 是我最後之所教誨
 日5【星】9
 仰觀星宿
 日5【昼】9
 ↓
 日7【晝】11を見よ。
 日6【時】10
 ⇓*115
 是時中夜寂然無聲
 節身時食

1 1
 13 5
 5 10
 1 12 6
 7 6 5
 1 24 21 19 18 17 10 9 5 5 4 3 25
 3 14 9 9 7 13 11 12 12 3 7 13 6

日9 【會】13 ↓*118

會亦當滅

會而不離

會必有離

月 部

月0 【月】4

月可令熱日可令冷

月2 【有】6

是則能有善法

譬如有人手執蜜器動轉輕躁但觀於蜜不見深坑

初夜後夜亦無有廢

有愧之人

則有善法

若有人來節節支解

乃可名為有力大人

譬如清冷雲中而有霹靂起火非所應也

觸事有餘

有少欲者

則有涅槃

4	4	4	3	3	3	3	3	2	2	1	6	6	6	
3	3	2	15	8	5	3	3	19	8	20	2	18	14	13
8	3	14	8	10	6	6	1	6	8	10	2	15	2	15

譬如大樹衆鳥集之則有枯折之患

若有不忘念者

若有智慧

不令有失

若人有智慧之照

無爲空死後致有悔

若於苦等四諦有所疑者

若有所作未辦者

當有非感

若有初入法者

若有所作已辦已度苦海者

會必有離

何有智者

月4 【服】8 ↓*119

當如服藥

慚耻之服

服與不服

服與不服

木 部

5	5	2	2	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	4	4	
22	22	25	13	22	18	8	7	7	6	24	21	11	6	5	21	13
7	4	13	11	12	17	17	10	6	12	2	11	2	2	6	2	15

木3	【来】7	⇨*121	若有人來節節支解	3	5	8	
木3	【杖】7		譬如牧牛之人執杖視之不令縱逸犯人苗稼	1	24	11	
木1	【未】5		未足喻也	2	8	2	
木1	【本】5	⇨*120	戒是正順解脫之本故 宜應端心以質直爲本 思滅苦本	4	12	14	3 1 22 18 14 1
木0	【木】4		當尊重瓊敬波羅提木叉 斬伐草木 名波羅提木叉	1	18	7	1 1 1 11 7 8 7
木6	【根】10		當制五根勿令放逸入於五欲 若縱五根	1	23	12	
木5	【枯】9		譬如大樹衆鳥集之則有枯折之患	4	13	16	
木4	【果】8		因滅故果滅	6	4	13	
木8	【植】12	⇨*122	不得販賣貿易安置田宅畜養人民奴婢畜生一切種植	1	10	7	
木9	【樂】13	⇨	木11【樂】15を見よ。				
木9	【樓】13	⇨	木11【樓】15を見よ。				
木6	【根】10		五根賊禍殃及累世爲害 此五根者心爲其主 亦復不爲諸根所牽	4	1	14	2 2 1 6 3 1 6 12 8
木0	【木】4		則是如來法身	6	17	15	

木10 【槃】14 □*123

佛垂般涅槃略說教誡經

將入涅槃

則有涅槃

佛垂般涅槃略說教誡經

木11 【樂】15 □*124

即是富樂安隱之處

猶為安樂

欲求寂靜無為安樂

若樂眾者

汝若欲得寂滅樂者

不可令樂

木11 【樓】15 □*125

時阿菟樓陀觀察眾心而

阿菟樓陀

木12 【樹】16 □*126

於娑羅雙樹間

譬如狂象無鉤猿猴得樹騰躍躑躅難可禁制

譬如大樹眾鳥集之則有枯折之患

伐煩惱樹之利斧也

若在樹下閑處靜室

欠部

欠0 【欠】4 ↓ 伍4 【缺】10を見よ。

欠7 【欲】11 □*127

當制五根勿令放逸入於五欲

非唯五欲將無崖畔不可制也

白衣受欲

出家人道無欲之人而

多欲之人

少欲之人

無求無欲

直尔少欲尚應修習

小欲

少欲之人

行少欲者

有少欲者

是名少欲

若欲脫諸苦惱

4	2	1	6	6	6	5	4	4	4	4	7	4	1	1
13	10	5	10	1	3	15	12	10	6	5	3	3	5	1
9	1	3	7	7	10	5	16	12	4	5	5	10	8	5

4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	2	1	5	5
4	3	3	2	25	25	24	24	24	23	14	13	1	19	9
6	14	5	2	15	8	17	9	3	8	7	6	12	3	17

止 0	止 4	止 4	止 10	止 11	止 8	止 8	止 2	止 1	止 8
苦止一卅	【止】4	【步】8	【歷】14	【歡】22	【欺】12	【此】6	【正】5	【正】5	【歡】15
		推步盈虛	歷數筭計	⇩*128	諂曲但爲欺誑	當知此則是汝大師 無異此也	⇩*129	當自端心正念求度 戒是正順解脫之本故	↓
				若其不能歡喜忍受惡罵之毒如飲甘露者 如殺怨賊而不歡喜		此則 依因此戒 此五根者心爲其主 縱此心者喪人善事 則無此患 於此衆中 欲令此諸大衆皆得堅固 此是應捨罪惡之物		常爲五欲所牽 欲求寂靜無爲安樂 譬如鑽火未熱而息雖欲得火火難可得 雖入五欲賊中 汝若欲得寂滅樂者 欲令此諸大衆皆得堅固 時將欲過 我欲滅度	常爲五欲所牽 欲求寂靜無爲安樂 譬如鑽火未熱而息雖欲得火火難可得 雖入五欲賊中 汝若欲得寂滅樂者 欲令此諸大衆皆得堅固 時將欲過 我欲滅度
2	3	6	1	6	3	3	6	4	4
3	8	23	8	23	9	21	25	18	10
8		8		8	1	10	17	16	5
1	1	6	1	6	6	1	1	1	6
12	12	21	12	21	6	18	17	17	25
12	9	8	9	8	10	4	11	13	7

歹 部

歹²【死】6

則是度老病死海

無為空死後致有悔

沒在老病生死大海

歹⁵【殃】9

五根賊禍殃及累世為害

殳 部

殳⁶【殺】10

常伺殺人 彳*130

如殺怨賊而不歡喜

殳⁹【毀】13 彳*131

勿令毀缺

母 部

母⁴【毒】8 彳*132

1	6	2	2	6	5	5
19	23	22	3	22	21	8
16	3	4	15	8	8	5

心之可畏甚於毒蛇

煩惱毒蛇

若其不能歡喜忍受惡罵之毒如飲甘露者

比 部

比⁰【比】4 彳*133

a

汝等比丘

b

汝等比丘

比丘當持淨戒

汝等比丘

比丘

汝等比丘

比丘亦尔

比丘

汝等比丘

汝等比丘

汝等比丘

汝等比丘

汝等比丘

4	3	3	3	3	3	2	2	2	1	1	1	2	3	2	2
10	23	20	16	5	1	15	13	12	23	19	6	18	9	23	7
3	3	3	3	3	16	7	3	2	3	8	10	3	8	3	9

水 ⁰ 【水】 ₄	譬如小水常流則能穿石	4	17	8
水(氵·水)部				
氏 ¹ 【民】 ₅	不得販賣貿易安置田宅畜養人民奴婢畜生一切種植	1	9	16
氏部				
汝等比丘		5	4	3
汝等比丘		5	4	3
汝等比丘		6	6	12
汝等比丘		6	13	3
世尊是諸比丘		6	5	14
汝等比丘		5	17	3
比丘		5	14	6
汝等比丘		5	13	3
汝等比丘		4	25	3
汝等比丘		4	20	3
汝等比丘		4	16	3
水 ² 【求】 ₇ ㄅ*134	譬如防水之家善治堤塘 為智慧水故	5	5	3
當自端心正念求度		1	15	9
無得多求壞其善心		2	16	5
當念無常之火燒諸世間早求自度勿睡眠也		2	21	8
多求利故		3	23	12
無求無欲		3	24	7
則無諂曲以求人意		4	1	6
欲求寂靜無為安樂		4	10	6
求善知識		4	20	5
求善護助		4	20	9
無得懷疑不求決也		5	24	15
當勤精進早求解脫以智慧明滅諸癡闇		6	19	15
常當一心勤求出離道		6	24	2
水 ³ 【汝】 ₆				
汝等比丘		1	6	8
當知此則是汝大師		1	8	5
汝等比丘		1	6	8
汝等		2	6	14
汝等		1	23	1

當勤精進折伏汝心
 汝等比丘
 汝等比丘
 睡在汝心
 譬如黑蜬在汝室眠
 汝等比丘
 汝等比丘
 汝等比丘
 汝等
 汝等比丘
 汝等比丘
 汝等比丘
 汝等
 汝等比丘
 汝等
 汝等比丘
 汝等比丘
 汝等比丘
 汝等比丘
 汝若欲得寂滅樂者

5 5 5 5 5 4 4 4 4 4 4 3 3 3 3 3 2 2 2 2 2
 14 13 10 5 1 25 21 20 16 16 10 4 23 22 20 16 5 23 23 18 13 12
 16 1 5 1 10 1 17 1 16 1 1 1 4 1 1 1 14 7 1 1 10

水5
【治】8

何況
何況

水5
【況】8

没於衆苦
没在老病生死大海

水4
【没】7

水4
【沢】7
↓
水13
【澤】16を見よ。

決定無疑
無得懷疑不求決也

水4
【決】7
⇨*135

汝等
汝等比丘
汝等比丘

汝等
汝等

汝等比丘
汝等

3 3
25 18
6 16

6 4
22 14
3 7

6 5
6 24
3 16

6 6 6 5 5 5
25 23 13 23 18 17
4 10 1 11 16 1

譬如防水之家善治堤塘
 【泥】8
 譬如老象溺泥不能自出
 水5
 【波】8
 當尊重瓊敬波羅提木叉
 名波羅提木叉

5 3 1
 1 14 16
 6 4 4

是則於我法中
 念所受法
 若有初入法者
 自利利人法
 則是如來法身
 一切世間動不動法
 水6
 【海】9 ↓*136
 則是度老病死海
 若有所作已辦已度苦海者
 沒在老病生死大海
 水6
 【活】9
 清淨自活
 以乞自活
 水6
 【淨】9 ↓*137
 持淨戒者
 清淨自活
 比丘當持淨戒
 若人能持淨戒
 若無淨戒

5 5 6 6 5 5
 3 6 7 14 20 6
 1 6 6 6 7 9 3
 1 1 1 1 1
 8 8 8 8 8
 17 17 17 17 17
 3 1 6 6 5
 17 13 22 9 8
 7 10 10 8 6

水7 【消】10

中夜誦經以自消息

2
19
14

於好於惡勿生增減

2
14
3

水7 【涅槃】10 ⇨*138

佛垂般涅槃略說教誡經

將入涅槃

則有涅槃

佛垂般涅槃略說教誡經

1
1
5
1
7
4

水9 【渴】12 ⇨*141

以除飢渴

2
14
11

水7 【流】10 ⇨*139

譬如小水常流則能穿石

4
17
10

水10 【溺】13

譬如老象溺泥不能自出

4
14
15

水8 【渴】11 ↓ 水9 【渴】12を見よ。

水10 【滅】13 ⇨*142

於我滅後

得生諸禪定及滅苦智慧

1
6
14

水8 【深】11

譬如有人手執蜜罇動轉輕躁但觀於蜜不見深坑

2
9
7

當疾滅之

思滅苦本

能知世間生滅法相

汝若欲得寂滅樂者

唯當善滅戲論之患

苦若滅者

即是因滅

水8 【清】11

清淨自活

譬如清冷雲中而有霹靂起火非所應也

3
15
3
1
13
7

水9 【滅】12 ⇨*140

即是因滅

6
4
9

火0	火(灬)部	水13	水11	我欲滅度	得除滅之	我今得滅	當勤精進早求解脫以智慧明滅諸癡闇	常在而不滅也	會亦當滅	卅尊滅度	見佛滅度	減苦之道	因滅故果滅	因滅故果滅
【火】4		【澤】16	【漏】14											
如避火坑		若空澤中	令不漏失											
1		5	5	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
11		19	4	1	22	21	20	18	14	9	7	4	4	4
1		13	2	1	17	3	5	5	1	16	3	15	14	11
火8	火(灬)部	火8	火8	火8	火8	火5	火5	火5	火5	火5	火5	火5	火5	火5
【無】12	心則坦然	【然】12	【燒】12	【為】9	【為】12	【為】9	【為】12	【為】9	【為】12	【為】9	【為】12	【為】9	【為】12	【為】9
是時中夜寂然無聲		是時中夜寂然無聲	當念無常之火燒諸世間早求自度勿睡眠也	欲求寂靜無為安樂	欲求寂靜無為安樂	譬如鑽火未熱而息雖欲得火火難可得	譬如鑽火未熱而息雖欲得火火難可得	譬如鑽火未熱而息雖欲得火火難可得	譬如鑽火未熱而息雖欲得火火難可得	譬如鑽火未熱而息雖欲得火火難可得	譬如鑽火未熱而息雖欲得火火難可得	譬如鑽火未熱而息雖欲得火火難可得	譬如鑽火未熱而息雖欲得火火難可得	譬如鑽火未熱而息雖欲得火火難可得
1	4	1	2	4	4	4	4	4	4	4	3	3	2	2
5	2	5	21	10	10	19	19	18	15	12	12	21	7	7
15	7	14	3	10	10	2	1	10	12	3	2	16	16	16

無異此也
 若無淨戒
 非唯五欲將無崖畔不可制也
 譬如狂象無鉤猿猴得樹騰躍踔躑難可禁制
 當急挫之無令放逸
 無事不辦
 無得多求壞其善心
 無令失時
 初夜後夜亦無有廢
 無以睡眠因緣令一生空過無所得也
 無以睡眠因緣令一生空過無所得也
 當念無常之火燒諸世間早求自度勿睡眠也
 不出而眠是無慙人也
 若無愧者
 無相異也
 當自攝心無令瞋恨
 無過瞋恚
 無法自制
 出家行道無欲之人而
 則無是處
 無求無欲
 無求無欲

3 3 3 3 3 3 3 3 3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1
 24 24 21 14 13 12 5 3 3 25 20 20 19 19 18 16 11 10 9 1 20 8
 8 6 16 6 11 16 17 17 10 6 16 10 16 5 13 2 13 14 13 14 14 12

則無此患
 則無諂曲以求人意
 無所憂畏
 常無不足
 欲求寂靜無為安樂
 則事無難者
 無如不忘记
 譬如着鎧入陣則無所畏
 則無貪着
 無所名也
 亦是無明黑闇大明燈也
 無為空死後致有悔
 無得懷疑不求決也
 人無問者
 衆無疑故
 更無異因
 更無餘道
 決定無疑
 更無所益
 世皆無常
 無牢強者

6 6 6 6 6 6 6 6 5 5 5 5 5 4 4 4 4 4 4 4 4 3
 20 18 15 6 5 3 1 25 24 21 8 7 5 24 20 16 10 2 2 1 24
 13 13 6 5 7 16 1 10 10 5 13 9 10 5 13 11 9 17 8 2 11

火9 【照】13 ◻*146

若人有智慧之照

火9 【煩】13 ◻*147

a

煩惱毒蛇

b

諸煩惱賊

諸煩惱賊

伐煩惱樹之利斧也

火11 【熱】15

譬如鑽火未熱而息雖欲得火火難可得

月可令熱日可令冷

火12 【燈】16

亦是無明黑闇大明燈也

爪（𠂔）部

爪8 【爲】12 ◻*148 ↓
火5 【為】9をも見よ。

a

爲諸弟子

當知戒爲第一安穩功德之所住處

五根賊禍殃及累世爲害

此五根者心爲其主

最爲第一

忍之爲德

乃可名爲有力大人

爲解脫故

詭曲但爲欺誑

宜應端心以質直爲本

亦復不爲諸根所牽

猶爲安樂

b

常爲五欲所牽

爲知足者之所憐愍

不爲所害

爲智慧水故

是名爲定

是爲智慧

無爲空死後致有悔

復爲衆說

假名爲身

6	6	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	2	2	1	1
22	12	21	12	4	3	23	8	8	6	1	22	21	19	8	7	1	6	4	21	5
1	6	6	1	6	8	12	9	4	2	12	13	9	6	9	9	2	9	2	13	17

爻部

爻¹⁰【尔】5 □*149

比丘亦尔

直尔少欲尚應修習

行者亦尔

若不尔者

尔時卅尊

2 15 10

3 24 15

5 3 7

5 6 16

5 25 1

牛(牛)部

牛⁰【牛】4

譬如牧牛之人執杖視之不令縱逸犯人苗稼

譬如智者籌量牛力所堪多少不令過分以竭其力

1 24 7

2 16 16

牛²【牟】6

釋迦牟尼佛

1 3 3

牛³【牢】7

堅牢船也

無牢強者

5 8 8

6 20 14

牛⁴【物】8

此是應捨罪惡之物

6 21 15

牛⁴【牧】8

譬如牧牛之人執杖視之不令縱逸犯人苗稼

1 24 6

牛⁷【牽】11 □*150

亦如惡馬不以轡制將當牽人墜於坑坎

亦復不爲諸根所牽

常爲五欲所牽

4 8 8 4 1 16 2 2 14

犬(犾)部

犬²【犯】5 □*151

譬如牧牛之人執杖視之不令縱逸犯人苗稼

2 1 1

犬⁴【狂】7

譬如狂象無鈎猿猴得樹騰躍蹕躑難可禁制

2 9 11

犬⁶【独】9

↓ 犬¹³【獨】16を見よ。

犬⁸【猛】11

瞋心甚於猛火

3 12 2

犬9 【猴】12 ⇩*152

譬如狂象無鈎猿猴得樹騰躍踔躑難可禁制

2 9 16

犬9 【猶】12 ⇩*153

a

瞋猶可恕

3 13 16

猶爲安樂

4 6 1

b

猶未得脫

5 下13
欄外17

犬10 【猿】13 ⇩*154

譬如狂象無鈎猿猴得樹騰躍踔躑難可禁制

2 9 15

犬12 【獸】16 ↓ 犬15 【獸】19を見よ。

犬13 【獨】16 ⇩*155

當離憤鬧獨處閑居

空閑獨處

4 4 12 10 9 17

犬15 【獸】19 ⇩*156

a

惡獸怨賊大火越逸

2 7 12

b

與諸禽獸

3 3 16

玉(王)部

玉5 【珍】9 ↓ 玉5 【珎】9を見よ。

玉5 【珎】9 ⇩*157

當尊重珎敬波羅提木叉

1 7 2

甘部

甘0 【甘】5

若其不能歡喜忍受惡罵之毒如飲甘露者

3 9 11

甘4 【甚】9

甚重

心之可畏甚於毒虵 ⇩*158

2 2 7 4 7 4

甚於怨家
 瞋心甚於猛火
 甚不可也

3 3 2
 14 11 22
 14 17 6

生部

生⁰【生】5

不得販賣貿易安置田宅畜養人民奴婢畜生一切種植
 得生諸禪定及滅苦智慧
 皆不得生
 於好於惡勿生增減
 無以睡眠因緣令一生空過無所得也
 能生諸功德
 能知世間生滅法相
 没在老病生死大海

1 1 1
 10 18 21 7
 3 14 7 1
 2 14 20 7
 2 25 10 4
 1 1 1 1
 6 22 7

田部

田⁰【田】5

不得販賣貿易安置田宅畜養人民奴婢畜生一切種植

1 9 11

心之可畏甚於毒蛇
 無所憂畏
 譬如着鎧入陣則無所畏

4 4 2
 24 2 7
 7 11 6

田⁵【畜】10

不得販賣貿易安置田宅畜養人民奴婢畜生一切種植
 不得販賣貿易安置田宅畜養人民奴婢畜生一切種植
 不應畜積

1 1 1
 17 10 9
 1 2 13

田⁵【畔】10

非唯五欲將無崖畔不可制也

2 1 16

田⁶【異】11 □*159

無異此也
 不得包藏瘕疵顯異惑衆
 無相異也
 不可令異
 更無異因

1 1 1
 8 16 1 13
 3 4 2 1
 6 6 3 1 1
 3 2 4 16 8
 17 17 2 1 13

田⁶【略】11

佛垂般涅槃略說教誡經
 略說法要

1 1
 6 1
 4 6

田⁴【畏】9

田8
【當】13 ㄅ*160

略說持戒之相
佛垂般涅槃略說教誡經

當尊重珍敬波羅提木叉	1
當知此則是汝大師	1
及諸財寶皆當遠離	1
當自端心正念求度	1
比丘當持淨戒	1
當知戒為第一安穩功德之所住處	1
當制五根勿令放逸入於五欲	1
亦如惡馬不以轡制將當牽人墜於坑塢	1
當好制心	2
當急挫之無令放逸	2
當勤精進折伏汝心	2
當如服藥	2
當念無常之火燒諸世間早求自度勿睡眠也	2
當以持戒之鈎早屏除之	2
常當慚耻勿得暫替	2
當自攝心無令瞋恨	2
亦當護口勿出惡言	2
當知	2

7 1
3 17
6 5

常當防護勿令得入	3
當自摩頭以捨飾好着壞色衣者	3
當疾滅之	3
當知	3
當知	3
當觀知足	3
當離憤鬧獨處閑居	3
當捨己來他衆	3
當勤精進	3
當攝念在心	3
常當精勤修習諸定	3
當以聞思修慧而自增益	3
當急捨離亂心戲論	3
唯當善滅戲論之患	3
常當一心捨諸放逸如離怨賊	3
但當勤而行之	3
常當自勉精進修之	3
當有非感	3
會亦當滅	3
當知	3
當勤精進早求解脫以智慧明滅諸癡闇	3
常當一心勤求出○道	3

疋部

疋⁹【疑】14 ⇨*161

若於苦等四諦有所疑者

無得懷疑不求決也

衆無疑故

決定無疑

疒部

疒⁵【疵】10

不得包藏癩疵顯異惑衆

疒⁵【疾】10 ⇨*162

當疾滅之

可疾問之

一何疾哉

疒⁵【病】10

則是度老病死海

一切病者之良藥也

我如良醫知病說藥

5 5 5
22 9 8
1 6 4

6 5 3
10 24 17
3 7 17

1
15
16

6 6 5 5
6 1 24 24
6 2 13 4

如除惡病

沒在老病生死大海

疒⁸【痴】13 ↓ 疒¹⁴【癡】19を見よ。

疒⁹【瘕】14 ⇨*163

不得包藏瘕疵顯異惑衆

疒¹⁴【癡】19 ⇨*164

當勤精進早求解脫以智慧明滅諸癡闇

白部

白⁰【白】5

白衣受欲

尚非世俗白衣所宜

又非白衣

白佛言

白⁴【皆】9 ⇨*165

a

皆已度訖

1
4
12

6 5 3 3
1 7 18 13
14 7 11 3

6
20
7

1
15
15

6 6
22 21
6 7

推步盈虛	1	12	10	1	21	4	6	6	18	16	1	6	6	16	10	15	6	6	8	5	2	1	1	1	

略說持戒之相	1	17	10	1	5	15	3	22	12	3	24	14	3	21	1	6	5	15	8	5	10	16	5	18	11
占相吉凶	1	12	1	1	5	15	3	22	12	3	24	14	3	21	1	6	5	15	8	5	10	16	5	18	11

無相異也

與道相違

能知世間生滅法相

世間神如是 ⇩*168

皆是敗壞不安之相

目 5 【真】10

集真是因

實是真道

目 5 【眠】10

無以睡眠因緣令一生空過無所得也

當念無常之火燒諸世間早求自度勿睡眠也

安可睡眠不自警悟

譬如黑蚊在汝室眠

乃可安眠

不出而眠是無慙人也

目 6 【眼】11

雖是肉眼而是明見人也

目 8 【睡】13

⇩*169

3

4

1

6

25

3

6

3

12

6

5

4

2

20

2

2

21

13

2

22

13

2

23

16

2

24

17

2

25

4

5

11

10

a

當念無常之火燒諸世間早求自度勿睡眠也

安可睡眠不自警悟

睡在汝心

睡地既出

無以睡眠因緣令一生空過無所得也

目 10 【瞋】15

⇩*170

當自攝心無令瞋恨

瞋恚之害

瞋心甚於猛火

無過瞋恚

瞋猶可恕

懷瞋恚

矢 部

矢 3 【知】8

⇩*171

a

當知此則是汝大師

當知戒為第一安穩功德之所住處

2

21

12

2

23

5

2

20

1

3

6

2

3

10

9

3

11

15

3

13

1

3

13

1

3

13

1

3

13

1

3

13

1

3

13

1

1

8

1

1

11

1

不知足者
 爲知足者之所憐愍
 是名知足
 b
 不知足者
 c
 知量知足
 知量知足
 當知
 當知
 當知
 當知
 當觀知足
 知足之法
 知足之人
 不知足者
 知足之人
 求善知識
 能知世間生滅法相
 我如良醫知病說藥
 當知

6 5 5 4 4 4 4 4 4 3 3 3 1 1 4 4 4 4
 18 21 1 20 7 6 5 4 4 23 21 11 16 16 7 9 8 7
 10 17 1 7 8 6 10 15 13 6 5 14 10 8 17 2 10 1

石部

石0【石】5

譬如小水常流則能穿石

4
17
14

石5【破】10 ◊*172

則破諸善法

3
10
14

石11【磨】16

皆亦不久見其磨滅

2
6
2

示(示)部

示0【示】5

又如善導示人善道

5
22
16

示8【禁】13

譬如狂象無鉤猿猴得樹騰躍踔躑難可禁制

2
10
8

示9【禍】13 ↓ 示9【禍】13を見よ。

示9【禪】13 ◊*173 ↓ 示12【禪】17をも見よ。

善修禪定

5
3
15

示9 【禍】13 ⇩*174

五根賊禍殃及累世爲害

2
3
14

示12 【禪】17 ⇩*175 ↓ 示9 【禪】13をも見よ。

得生諸禪定及滅苦智慧

1
18
16

内 部

内8 【禽】12

與諸禽獸

3
3
15

禾 部

禾5 【称】10 ↓ 禾9 【稱】14を見よ。

禾5 【秦】10

姚秦三藏法師

1
2
2

禾9 【種】14

不得販賣貿易安置田宅畜養人民奴婢畜生一切種植

1
10
6

若種種戲論

5
13
6

若種種戲論

5
13
7

禾9 【稱】14 ⇩*176

亦不稱意

4
6
15

禾10 【稼】15

譬如牧牛之人執杖視之不令縱逸犯人苗稼

2
1
4

禾11 【穩】16 ↓ 禾14 【穩】19を見よ。

禾11 【積】16

不應畜積

1
17
2

禾14 【穩】19 ⇩*177

當知戒爲第一安穩功德之所住處

1
21
17

穴 部

穴2 【究】7

皆以究竟

5
18
14

穴3 【空】8 ⇩*178

無以睡眠因緣令一生空過無所得也

空閑獨處

若空澤中

無為空死後致有悔

竹部

竹5 【第】11 ⇩*180

當知戒為第一安穩功德之所住處

最為第一

穴4 【穿】10

譬如小水常流則能穿石

竹6 【等】12 ⇩*181

汝等比丘

汝等比丘

汝等

汝等比丘

汝等比丘

汝等比丘

汝等比丘

汝等比丘

汝等

汝等比丘

汝等比丘

汝等比丘

汝等比丘

汝等

汝等比丘

立部

立6 【竟】11

皆以究竟

立9 【竭】14 ⇩*179

譬如智者籌量牛力所堪多少不令過分以竭其力

立9 【端】14

當自端心正念求度

宜應端心以質直為本

3	1	2	5	4	5	4	2	21	19	12	20	7	12	7	8	3	1	1	1
22	15	17	18	17	19	21	12	16	13	10	18	7	12	7	8	1	21	6	6
8	5	10	15	13	12	7	8	2	15	2	9	3	14			3	14	2	9

汝等

汝等比丘

汝等

汝等比丘

汝等

汝等比丘

汝等比丘

汝等

汝等

若於苦等四諦有所疑者

汝等比丘

汝等比丘

汝等

若有人來節節支解

竹8【算】14 ↓ 竹7【筭】13を見よ。

竹14【籌】20 ↓ *184

譬如智者籌量牛力所堪多少不令過分以竭其力

米部

*8【精】14

當勤精進折伏汝心

若勤精進

當勤精進

是名精進

常當精勤修習諸定

常當自勉精進修之

當勤精進早求解脫以智慧明滅諸癡闇

糸部

*5【經】11 ↓ *7【經】13を見よ。

若有人來節節支解

節身時食

竹7【節】13 ↓ *183

歷數筭計

竹7【筭】13 ↓ *182

3	1	1	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4
5	13	12	25	23	13	23	23	18	17	13	10	5	1	25	22	
9	3	14	5	11	2	16	12	17	2	2	6	2	11	2	1	

6	5	5	4	4	4	2	2									3
19	21	1	19	17	16	12	16									5
12	1	14	8	3	7	6	14									10

<p>※10 【縱】16 ⇩*189</p> <p>譬如牧牛之人執杖視之不令縱逸犯人苗稼</p>	<p>※9 【緣】15 ⇩*188</p> <p>無以睡眠因緣令一生空過無所得也</p> <p>皆亦已作得度因緣</p>	<p>佛垂般涅槃略說教誡經</p> <p>中夜誦經以自消息</p>	<p>佛垂般涅槃略說教誡經</p>	<p>※7 【經】13 ⇩*187</p>	<p>※6 【結】12 ⇩*186</p> <p>結好貴人</p>	<p>※5 【累】11</p> <p>五根賊禍殃及累世爲害</p>	<p>※5 【終】11 ⇩*185</p> <p>終不可得</p>
1	6 2	7 2	1		1	2	6
24	16 20	3 19	1		14	3	14
16	16 4	10 11	10		8	17	6
	<p>※8 【置】13 ⇩*193</p> <p>不得販賣貿易安置田宅畜養人民奴婢畜生一切種植</p>	<p>※8 【罪】13</p> <p>此是應捨罪惡之物</p>	<p>网(罒)部</p>	<p>缶部</p>	<p>※10 【縛】15 ⇩*191</p> <p>世間縛着</p>	<p>若縱五根</p> <p>不令縱逸</p> <p>假令縱之 ⇩*190</p> <p>縱此心者喪人善事</p> <p>若縱恚心則自妨道失功德利</p>	<p>若縱五根</p> <p>不令縱逸</p> <p>假令縱之 ⇩*190</p> <p>縱此心者喪人善事</p> <p>若縱恚心則自妨道失功德利</p>
1	6		1		4	3 2 2 2 2	2 2
9	21		19		14	6 11 5 5 1	5 1
10	12		17		5	13 1 11 7 6	7 6

网10 【罵】15

若其不能歡喜忍受惡罵之毒如飲甘露者

3
9
6

网14 【羅】19 ⇨ *194

鳩摩羅什譯

度須跋陀羅

於娑羅雙樹間

當尊重瓊敬波羅提木叉

名波羅提木叉

1 1 1 1 1
18 7 5 4 2
5 5 1 7 9

羊 部

羊6 【着】12 ⇨ *195

當自摩頭以捨飾好着壞色衣者

世間縛着

譬如着鎧入陣則無所畏

則無貪着

5 4 4 3
5 23 14 16
12 17 6 13

羊7 【義】13 ⇨ *196

了達四聖諦義

6
11
5

羽 部

羽5 【習】11 ⇨ *197

晝則勤心修習善法

直尔少欲尚應修習

常當精勤修習諸定

5 3 2
1 25 18
17 4 10

老 (老) 部

老0 【老】6

譬如老象溺泥不能自出

則是度老病死海

没在老病生死大海

6 5 4
22 8 14
5 3 13

老4 【者】8

所應度者

持淨戒者

智者制而不隨

此五根者心爲其主

縱此心者喪人善事

譬如智者籌量牛力所堪多少不令過分以竭其力

若無愧者

3 2 2 2 2 1 1
3 16 11 6 4 9 4
12 13 4 7 13 2 11

能行忍者	若其不能歡喜忍受惡罵之毒如飲甘露者	所以者何	當自摩頭以捨飾好着壞色衣者	行少欲者	有少欲者	不知足者	不知足者	不知足者	爲知足者之所憐愍	若樂衆者	則事無難者	若行者之心數數懈廢	若不忘念者	若失念者	若攝心者	若得定者	行者亦尔	若不尔者	實智慧者	一切病者之良藥也	汝若欲得寂滅樂者
3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5
8	9	10	16	2	3	6	7	8	8	13	16	17	21	22	25	2	3	6	7	16	15
5	13	7	17	3	6	8	3	2	12	1	13	17	6	11	8	6	5	17	7	6	6

而部

而 ⁰	【而】6	□*198	智者制而不隨	不出而眠是無慙人也	出家行道無欲之人而	譬如清冷雲中而有霹靂起火非所應也	自降其心而行乞也	雖富而貧	雖貧而富	若於苦等四諦有所疑者	人無問者	所以者何	苦若滅者	若有所作未辦者	若有初入法者	若有所作已辦已度苦海者	應可度者	其未度者	無牢強者	何有智者
			2	2	3	3	3	4	4	5	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6
			4	4	14	15	19	7	7	24	25	25	4	6	7	9	15	16	20	22
			15	3	10	7	14	6	14	5	12	15	5	17	14	9	12	8	16	14

譬如鑽火未熱而息雖欲得火火難可得
 當以聞思修慧而自增益
 雖是肉眼而是明見人也
 但當勤而行之
 時阿耨樓陀觀察衆心而
 會而不離
 常在而不滅也
 如殺怨賊而不歡喜

耳部

耳4 【耻】10 ⇩*199

慚耻之服
 常當慚耻勿得暫替
 若離慚耻

耳7 【聖】13

了達四聖諦義

耳8 【聞】14 ⇩*200

壞好名聞
 當以聞思修慧而自增益

6	6	6	6	5	5	5	4
23	18	14	1	19	11	10	18
6	3	3	13	4	11	13	13

3	3	2
2	2	25
12	4	11

6
11
3

5	3
10	11
9	4

聞之不行
 聞佛所說

耳11 【聲】17 ⇩*201

是時中夜寂然無聲

肉(月)部

肉0 【肉】6

雖是肉眼而是明見人也

肉6 【脆】10 ⇩*202

卅實危脆

肉6 【能】10 ⇩*203

a 譬如老象溺泥不能自出
 能得解脫

b

若人能持淨戒
 是則能有善法
 已能住戒

1	6	5
5	7	23
16	15	3

6	5
20	11
12	9

5	4
6	15
10	1

1	1	1
23	20	20
6	9	3

能制人非法

則不能入

c

所不能及

能行忍者

若其不能歡喜忍受惡罵之毒如飲甘露者

能生諸功德

譬如小水常流則能穿石

能知世間生滅法相

肉7
【脱】11

戒是正順解脫之本故

爲解脫故

若欲解脫諸苦惱

能得解脫

猶未得脫

當勤精進早求解脫以智慧明滅諸癡闇

臣部

臣2
【臥】8

↓

臣2
【卧】8を見よ。

臣2
【卧】8 ⇨ *204

雖卧地上

自部

自0
【自】6

清淨自活

當自端心正念求度

趣自除惱

中夜誦經以自消息

當念無常之火燒諸世間早求自度勿睡眠也

安可睡眠不自警悟

當自攝心無令瞋恨

若縱恚心則自妨道失功德利

無法自制

當自摩頭以捨飾好着壞色衣者

以乞自活

自見如是

自降其心而行乞也

譬如老象溺泥不能自出

常自省察

當以聞思修慧而自增益

5	5	4	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	1	1	4
10	5	15	19	17	17	16	13	6	5	22	21	19	15	15	13	5
14	14	2	10	8	6	6	13	17	14	15	9	13	16	4	9	15

常當自勉精進修之

自利利人法

自今已後

至部

至4 【致】10

通致使命

無爲空死後致有悔

白(白)部

白8 【與】14 ⇩*205

與諸禽獸

與道相違

服與不服

舟部

舟4 【般】10

佛垂般涅槃略說教誡經

佛垂般涅槃略說教誡經

舟4 【舩】10 ⇩*206

堅牢舩也

舟5 【船】11 ↓ 舟4 【舩】10を見よ。

良部

良1 【良】7

一切病者之良藥也

我如良醫知病說藥

色部

色0 【色】6 ⇩*207

如蜂採華但取其味不損色香

當自摩頭以捨飾好着壞色衣者

艸(艸・艸)部

艸5 【苦】8 ⇩*208

得生諸禪定及滅苦智慧

苦止一卅

7 1
3 1
3 3

5 3 3
22 20 3
5 9 13

5 1
21 14
10 1

6 6 5
16 14 20
17 10 16

2 1
3 19
7 3

3 2
16 15
15 5

5 5
21 9
15 9

5
8
9

若於山間

若空澤中

若在樹下閑處靜室

若若滅者

若有初入法者

若有所作已辦已度苦海者

若我住世一切

若我久住

若天上人間皆悉已度

5

5

5

6

6

6

6

6

6

19

19

19

19

19

13

13

15

15

7

11

15

3

9

16

9

1

13

【苗】8 ⇨*210

譬如牧牛之人執杖視之不令縱逸犯人苗稼

2

1

3

【草】10 ⇨*211

斬伐草木

1

11

7

【莊】9 ↓ 艸7 【莊】11を見よ。

【華】10 ↓ 艸8 【華】12を見よ。

【莊】11 ⇨*212

於諸莊嚴

2

25

16

【華】12 ⇨*213

如蜂採華但取其味不損色香

2

14

15

【藏】15 ⇨*214

姚秦三藏法師

不得包藏瘕疝顯異惑衆

1

15

14

【藥】16 ↓ 艸15 【藥】19を見よ。

【藥】19 ⇨*215

合和湯藥

仙藥

當如服藥

一切病者之良藥也

我如良醫知病說藥

1

11

16

1

14

7

2

13

12

5

9

10

5

22

3

虎部

【虛】11 ⇨*216

推步盈虛

1

12

11

⁵【處】11 ⇨*217

當知戒爲第一安穩功德之所住處

制之一處

則無是處

即是富樂安隱之處

雖處天堂

當離憤鬧獨處閑居

靜處之人

空閑獨處

若在樹下閑處靜室

虫 部

^{虫3}【蚰】9 ⇨*218

a 睡蚰既出

b

心之可畏甚於毒蚰

煩惱毒蚰

^{虫4}【蚘】10 ⇨*219

譬如黑蚘在汝室眠

2	2	2	2	5	4	4	4	4	4	3	2	1
23	23	7	24	20	12	11	11	6	5	22	11	22
12	4	10	11	3	10	5	1	10	9	1	12	6

^{虫5}【蛇】11 ↓ ^{虫3}【蚰】9を見よ。

^{虫7}【蜂】13 ⇨*220

如蜂採華但取其味不損色香

^{虫8}【蜜】14

譬如有人手執蜜器動轉輕躁但觀於蜜不見深坑

譬如有人手執蜜器動轉輕躁但觀於蜜不見深坑

血 部

^{血6}【衆】12 ⇨*221

不得包藏瘕疵顯異惑衆

當捨己衆他衆

當捨己衆他衆

若樂衆者

則受衆惱

譬如大樹衆鳥集之則有枯折之患

沒於衆苦

衆無疑故

時阿菴樓陀觀察衆心而

於此衆中

6	6	5	4	4	4	4	4	4	1	2	2	2
6	1	25	14	13	13	12	12	12	16	9	8	14
9	11	17	9	10	4	17	6	4	3	4	12	13

衆中皆悉

欲令此諸大衆皆得堅固
復爲衆說

行 部

行⁰【行】6

持戒苦行

能行忍者

非行人

出家行道無欲之人而

自降其心而行乞也

行少欲者

若行者之心數數懈廢

行者亦尔

但當勤而行之

聞之不行

展轉行之

行⁵【術】11 ⇨*222

呪術

1	6	5	5	5	4	4	3	3	3	3	3	6	6	6
14	17	23	19	3	17	1	19	14	13	8	7	12	11	10
5	10	6	5	4	16	17	15	4	8	3	14	7	13	13

衣 (衤) 部

衣⁰【衣】6 ⇨*223

白衣受欲

當自摩頭以捨飾好着壞色衣者

尚非世俗白衣所宜

又非白衣

衣⁵【被】10 ⇨*224

如被賊害

而 (冫) 部

而³【要】9

略說法要

見 部

見⁰【見】7 ⇨*225

皆亦不久見其磨滅

譬如有人手執蜜器動轉輕躁但觀於蜜不見深坑

人不喜見

3	2	2										1	2	5	3	3	3
11	9	5										6	3	7	18	16	13
12	6	17										7	4	8	12	16	4

角部

自見如是

雖是肉眼而是明見人也

見佛滅度

譬如夜見電光即得見道

譬如夜見電光即得見道

見4 **【視】** 11

譬如牧牛之人執杖視之不令縱逸犯人苗稼

見9 **【親】** 16

親厚

見11 **【觀】** 18

↓ 見18 **【觀】** 25を見よ。

見18 **【觀】** 25

◇*226

仰觀星宿

譬如有人手執蜜器動轉輕躁但觀於蜜不見深坑

當觀知足

時阿菟樓陀觀察衆心而

角6 **【解】** 13

◇*227

戒是正順解脫之本故

若有人來節節支解

爲解脫故

能得解脫

當勤精進早求解脫以智慧明滅諸癡闇

角6 **【觸】** 13

↓ 角13 **【觸】** 20を見よ。

角13 **【觸】** 20

◇*228

觸事有餘

言部

言0 **【言】** 7

◇*229

亦當護口勿出惡言

白佛言

言2 **【計】** 9

歷數筭計

言3 **【訖】** 10

1 2 4 6
12 9 4 1
5 2 12 9

1 14 12

1 24 12

3 17 9
5 11 14
6 7 1
6 8 9
6 8 14

3 6 16
6 1 16
3 6 11

4 2 12

1 17 15
3 5 12
3 19 7
5 19 12
6 6 7
6 12 15

皆已度訖

言4【訳】11 ↓ 言13【譯】20を見よ。

言7【誠】14

佛垂般涅槃略説教誡經
佛垂般涅槃略説教誡經

言7【誨】14 ⇨*230

是我最後之所教誨

言7【誑】14 ⇨*231

諂曲但爲欺誑

言7【語】14 ⇨*232

雖說是語

且止勿得復語

言7【誦】14 ⇨*233

中夜誦經以自消息

言7【説】14 ⇨*234

1
4
15

a

大悲卍尊所説利益
我如良醫知病説藥

佛説四諦

佛説苦諦實苦

聞佛所説

雖說是語

復爲衆説

佛垂般涅槃略説教誡經

b

最後説法

略説法要

略説持戒之相

c

佛垂般涅槃略説教誡經

言8【諸】15 ⇨*235

爲諸弟子

及諸財寶皆當遠離

得生諸禪定及滅苦智慧

諸善功德

受諸飲食

2
19
10

6 6
25 10
11 12

3
21
11

7
1
10

7 1
3 1
9 9

2 1 1 1 1
13 20 18 10 6
6 17 15 9 1

1
1
7

1 1 1
17 6 4
6 5 1

7 6 6 6 6
3 12 10 8 3
7 8 10 1 2

6 6 5 5
2 22 18
11 2 9

當念無常之火燒諸世間早求自度勿睡眠也	2
諸煩惱賊	21
於諸莊嚴	15
則失諸功德	15
與諸禽獸	14
則破諸善法	10
能生諸功德	11
亦復不為諸根所牽	13
若欲脫諸苦惱	8
帝釋諸天	10
諸煩惱賊	7
則失諸功德	14
常當精勤修習諸定	1
於諸功德	6
常當一心捨諸放逸如離怨賊	14
世尊是諸比丘	13
欲令此諸大眾皆得堅固	11
我諸弟子	5
當勤精進早求解脫以智慧明滅諸癡闇	17
言8 【詔】15	3
↳*236	20
諂曲之心	5

諂曲但為欺誑	3
則無諂曲以求人意	21
言8 【論】15	4
若種種戲論	13
當急捨離亂心戲論	14
唯當善滅戲論之患	15
是名不戲論	9
言9 【諦】16	5
若於苦等四諦有所疑者	5
佛說四諦	24
佛說苦諦實苦	2
於四諦中	6
了達四聖諦義	6
言12 【警】19	11
安可睡眠不自警悟	6
言12 【識】19	4
求善知識	20
	8

言13【護】20 ↓ 言14【護】21を見よ。

言13【譬】20 ⇨*237

譬如牧牛之人執杖視之不令縱逸犯人苗稼
 譬如有人手執蜜器動轉輕躁但觀於蜜不見深坑
 譬如狂象無鉤猿猴得樹騰躍踔躑難可禁制
 譬如智者籌量牛力所堪多少不令過分以竭其力
 譬如黑虻在汝室眠
 譬如清冷雲中而有霹靂起火非所應也
 譬如大樹來鳥集之則有枯折之患
 譬如老象溺泥不能自出
 譬如小水常流則能穿石
 譬如鑽火未熱而息雖欲得火火難可得
 譬如着鎧入陣則無所畏
 譬如防水之家善治堤塘
 譬如夜見電光即得見道

言13【誨】20 ⇨*238

鳩摩羅什譯

言14【護】21 ⇨*239

a

1	6	5	4	4	4	4	4	3	2	2	2	1
2	8	2	23	18	17	14	13	15	23	16	9	24
11	6	11	15	7	5	11	6	1	9	10	9	4

亦當護口勿出惡言
常當防護勿令得入

b

求善護助

豕部

豕5【象】12 ⇨*240

譬如狂象無鉤猿猴得樹騰躍踔躑難可禁制
 譬如老象溺泥不能自出

貝部

貝3【財】10

及諸財寶皆當遠離

貝4【貪】11

則無貪着

貝4【販】11

不得販賣貿易安置田宅畜養人民奴婢畜生一切種植

1	5	1									4	3	3
9	5	10									20	12	6
5	11	10									11	7	6

貝4 【貧】11 ⇩*241

如闇遇明貧人得寶

雖富而貧

雖貧而富

1 4 4 7 7 13

貝8 【質】15

宜應質直其心

宜應端心以質直爲本

3 3 22 20 11 17

貝5 【貴】12

結好貴人

1 14 10

貝8 【賣】15 ⇩*244

不得販賣貿易安置田宅畜養人民奴婢畜生一切種植

1 9 6

貝5 【買】12 ⇩*242

不得販賣貿易安置田宅畜養人民奴婢畜生一切種植

1 9 7

走 部

走3 【起】10 ⇩*245

譬如清冷雲中而有霹靂起火非所應也

若起憍慢

3 3 17 15 13 11

貝6 【賊】13 ⇩*243

如被賊害

五根賊禍殃及累世爲害

持之如賊

惡獸怨賊大火越逸

諸煩惱賊

劫功德賊

諸煩惱賊

雖入五欲賊中

常當一心捨諸放逸如離怨賊

如殺怨賊而不歡喜

6 5 4 4 3 2 2 2 2 2 1 14 4 13 5 23 18 23 21 12 22 7 5 3 3 5 3 9 10 15 1 14 4 13 5

走5 【越】12 ⇩*246

惡獸怨賊大火越逸

2 7 17

走8 【趣】15 ⇩*247

趣得供事

趣得支身

趣自除惱

2 2 1 15 14 16 15 4 12

足(足)部

足⁰【足】7 ⇨*248

a 知量知足

b

未足喻也

常無不足

當觀知足

知足之法

知足之人

不知足者

不知足者

知足之人

不知足者

爲知足者之所憐愍

是名知足

皆具足

足⁵【跋】12

度須跋陁羅

1	6	4	4	4	4	4	4	4	4	4	2	1
4	14	9	8	8	7	7	6	5	4	4	3	8
5	17	3	11	1	9	2	7	11	16	14	2	13

足⁸【蹕】15 ⇨*249

譬如狂象無鈎猿猴得樹騰躍蹕蹕難可禁制

足¹³【躁】20

譬如有人手執蜜器動轉輕躁但觀於蜜不見深坑

足¹⁴【躍】21

譬如狂象無鈎猿猴得樹騰躍蹕蹕難可禁制

足¹⁵【躑】22

譬如狂象無鈎猿猴得樹騰躍蹕蹕難可禁制

身部

身⁰【身】7

節身時食

趣得支身

則是如來法身

假名爲身

車部

6	6	2	1									
22	17	14	13									
2	17	7	4									

車4 【轉】11 ↓ 車11 【轉】18を見よ。

辛9 【辨】16 ⇨*252
無事不辦

車5 【輕】12 ↓ 車7 【輕】14を見よ。

若有所作未辦者
若有所作已辦已度苦海者

車7 【輕】14 ⇨*250

譬如有人手執蜜器動轉輕躁但觀於蜜不見深坑

走 (辵・止) 部

車8 【輪】15

初轉法輪

鹿5 【迦】9 ⇨*253
釋迦牟尼佛

車11 【轉】18 ⇨*251

初轉法輪

譬如有人手執蜜器動轉輕躁但觀於蜜不見深坑
展轉行之

鹿7 【通】10 ↓ 鹿7 【通】11を見よ。
鹿7 【通】11 ⇨*254
通致使命

車15 【轡】22

亦如惡馬不以轡制將當牽人墜於坑堦

2
2
10

辛 部

鹿8 【進】12 ⇨*255

當勤精進折伏汝心
若勤精進

辛9 【辨】16 ↓ 辛9 【辨】16を見よ。

4 2
16 12
8 7

1
13
17

1
3
2

6 6 2
9 6 11
4 16 16

當勤精進
是名精進
常當自勉精進修之
當勤精進早求解脫以智慧明滅諸癡闇

4 4
19 17
9 4

【逸】12 ⇨ *256

當制五根勿令放逸入於五欲
譬如牧牛之人執杖視之不令縱逸犯人苗稼
不令縱逸
惡獸怨賊大火越逸
當急挫之無令放逸
常當一心捨諸放逸如離怨賊

1 1
24 23
17 16
2 2
5 5
8 8
1 1

【過】12 ↓ 9 【過】13 を見よ。

9 【過】13 ⇨ *257

譬如智者籌量牛力所堪多少不令過分以竭其力
無以睡眠因緣令一生空過無所得也
無過瞋恚
非導過也
時將欲過

2 2
20 17
9 7
3 3
12 12
17 17
5 5
23 23
9 9
6 6
25 25
15 15

9 【遇】12 ↓ 9 【遇】13 を見よ。

9 【遇】13 ⇨ *258

如闇遇明貧人得寶

1 7 11

9 【達】12 ↓ 9 【達】13 を見よ。

9 【達】13 ⇨ *259

了達四聖諦義

6 11 1

9 【道】12 ↓ 9 【道】13 を見よ。

9 【道】13 ⇨ *260

若縱恚心則自妨道失功德利
不名入道智慧人也
非行道人
出家行道無欲之人而
出家入道之人
與道相違
入道之。人
既非道人
又如善導示人善道

3 3
9 7
17 2
3 3
13 10
3 3
5 5
14 14
19 19
20 20
21 21
7 7
5 5
23 23
2 2

如避火坑	是13 【避】17 ⇨*263	是13 【避】16 ↓ 是13 【避】17を見よ。	是10 【遠】14 ⇨*262 及諸財寶皆當遠離 是名遠離	是10 【遠】13 ↓ 是10 【遠】14を見よ。	是10 【違】13 ↓ 是9 【違】13を見よ。	是9 【違】13 ⇨*261 與道相違	常當一心勤求出○道 離 譬如夜見電光即得見道	更無餘道	實是真道	滅苦之道
1			4 1			3	6 6 6 6 6			
10			15 10			20	24 8 5 5 5			
17			6 14			12	4 15 9 5 1			

里 5
【量】12

所共敬重

甚重

當尊重瓊敬波羅提木叉

里 2
【重】9

里 部

帝釋諸天

釋迦牟尼佛

采13
【釋】20
⇨*265

采4
【積】11
↓
采13
【釋】20を見よ。

采 部

非醫咎也

我如良醫知病說藥

西11
【醫】18
⇨*264

西 部

4	2	1
11	4	7
15	5	1

4	1
11	3
9	1

5	5
22	21
9	16

知量知足

譬如智者籌量牛力所堪多少不令過分以竭其力

2 1
16 16
15 9

長部

長⁰【長】8

金部

金5【鉤】13

譬如狂象無鉤猿猴得樹騰躍蹕躑難可禁制

當以持戒之鉤早屏除之

慚如鐵鉤

3 2 2
1 24 9
8 5 14

門部

門⁴【間】12

於娑羅雙樹間

當念無常之火燒諸世間早求自度勿睡眠也

世間縛着

能知世間生滅法相

若於山間

若天上人間皆悉已度

世間^相如是

一切世間動不動法

1 5 4
21 5 6
4 6 4

3
18
4

金5【鐵】13

↓ 金¹³【鐵】21を見よ。

金¹⁰【鎧】18

譬如着鎧入陣則無所畏

4
24
1

金¹³【鐵】21

↓ * 266

慚如鐵鉤

3
1
7

門⁴【閑】12

當離憤鬧獨處閑居

空閑獨處

若在樹下閑處靜室

金¹⁵【鑽】23

↓ * 267

譬如鑽火未熱而息雖欲得火火難可得

4
18
9

金¹⁹【鑽】27

↓ 金¹⁵【鑽】23を見よ。

4 4
11 11
2 2

門9 【闇】17 ⇩*268

如闇遇明貧人得寶
亦是無明黑闇大明燈也
當勤精進早求解脫以智慧明滅諸癡闇

阜 (阜) 部

阜4 【防】7

常常防護勿令得入
譬如防水之家善治堤塘

阜5 【阿】8 ⇩*269

度阿若憍陳如
時阿菟樓陀觀察衆心而
阿菟樓陀

阜5 【陀】8 ⇩ 阜5 【施】8を見よ。

阜5 【施】8 ⇩*270

a 度須跋陀羅

b

6 5 1
20 8 7
8 16 10

5 3
2 12
13 6

6 6 1
10 1 3
5 5 11

1
4
6

時阿菟樓陀觀察衆心而
阿菟樓陀

阜6 【降】10 ⇩*271

自降其心而行乞也

阜7 【除】10 ⇩*272

以除飢渴
趣自除惱

當以持戒之鉤早屏除之
如除惡病
得除滅之

阜7 【陣】10

譬如着鎧入陣則無所畏

阜8 【陳】11

度阿若憍陳如

阜9 【隨】12 ⇩ 阜13 【隨】16を見よ。

阜11 【隱】14 ⇩ 阜14 【隱】17を見よ。

6 6
10 1
8 8

3
19
11

2 2
15 14
17 9

6 6 2
22 21 24
16 5 8

4
24
3

1
3
14

卓13 【隨】16 ⇨*273

智者制而不隨

2
4
17

c
雖復出家

5
13
14

卓14 【隱】17 ⇨*274

即是富樂安隱之處

4
5
7

佳10 【難】18 ⇨佳11 【難】19を見よ。

5
11
7

佳部

佳10 【雙】18 ⇨*276

於娑羅雙樹間

1
5
2

佳4 【集】12

譬如大樹衆鳥集之則有枯折之患

6
3
11

佳11 【離】19

集真是因

4
13
12

及諸財寶皆當遠離

1
10
15

若離慚耻

3
2
10

當離憤鬧獨處閑居

4
10
14

是名遠離

4
15
7

當急捨離亂心戲論

5
14
11

常當一心捨諸放逸如離怨賊

5
18
1

會而不離

6
14
5

會必有離

6
19
1

常當一心勤求出○道離 ⇨*277

6
24
3
右下

佳9 【雖】17 ⇨*275

a

雖富而貧

4
7
4

雖貧而富

4
7
12

譬如鑽火未熱而息雖欲得火火難可得

4
18
15

雖入五欲賊中

4
23
5

雖說是語

6
10
9

b

雖卧地上

4
5
14

雖處天堂

4
6
9

佳11 【難】19 ⇨*278

譬如狂象無鉤猿猴得樹騰躍踔躑難可禁制

2
10
6

則事無難者

譬如鑽火未熱而息雖欲得火火難可得

雨部

兩4 【雲】12

譬如清冷雲中而有霹靂起火非所應也

兩5 【電】13

譬如夜見電光即得見道

兩13 【霹】21

譬如清冷雲中而有霹靂起火非所應也

兩13 【露】21

若其不能歡喜忍受惡罵之毒如飲甘露者

兩16 【塵】22 ⇨*279

譬如清冷雲中而有霹靂起火非所應也

青部

青6 【靜】14 ⇨*280

欲求寂靜無為安樂

靜處之人

若在樹下閑處靜室

非部

非0 【非】8

非唯五欲將無崖畔不可制也

能制人非法

非行人

譬如清冷雲中而有霹靂起火非所應也

尚非世俗白衣所宜

既非道人

又非白衣

非醫咎也

非導過也

頁部

頁3 【須】12 ⇨*281

度須跋陁羅

1	5	5	5	5	3	3	3	3	2	5	4	4
4	23	22	7	7	18	15	13	1	1	20	11	10
4	7	8	6	2	8	13	7	12	9	4	4	8

頁3 【順】12

戒是正順解脫之本故

食4 【飲】12

受諸飲食

若其不能歡喜忍受惡罵之毒如飲甘露者

頁4 【預】13 ⇩*282

參預世事

食5 【飾】13

當自摩頭以捨飾好着壞色衣者

頁7 【頭】16

當自摩頭以捨飾好着壞色衣者

食6 【養】15

不得販賣貿易安置田宅畜養人民奴婢畜生一切種植

頁9 【顯】18 ↓ 頁14 【顯】23を見よ。

受人供養

頁14 【顯】23 ⇩*283

不得包藏瘕疵顯異惑衆

食7 【餘】16 ⇩*284

觸事有餘

更無餘道

食（食・食）部

食0 【食】9

節身時食

受諸飲食

香部

香0 【香】9 ⇩*285

如蜂採華但取其味不損色香

食2 【飢】18

以除飢渴

2
14
10

2 1
13 13
8 6

1
15
17

3
16
8

1
13
14

1
17
14

6 4
5 2
8 15

2 1 1
15 16 9
14 7 14

3
16
11

3 2
9 13
10 7

2
15
6

馬部

馬⁰【馬】10

亦如惡馬不以轡制將當牽人墜於坑塹

2
2
7

黑(黑)部

黑⁰【黑】11

譬如黑虻在汝室眠

亦是無明黑闇大明燈也

5 2
8 23
15 11

馬¹⁰【騰】20

譬如狂象無鉤猿猴得樹騰躍踔躑難可禁制

2
10
2

鬥部

鬥⁵【鬧】15 ㄉ*286

當離慣鬧獨處閑居

4
10
16

鳥部

鳥⁰【鳥】11

譬如大樹衆鳥集之則有枯折之患

4
13
11

鳥²【鳩】13

鳩摩羅什譯

1
2
7

【注記】

- その右にやや小字で補入されている。本文とは同筆と思われる。
- *001 『不』はすべて初画と二画目をつづけて「フ」の字に書く。
- *002 『丘』はすべて四画目の縦画を右に払う。
- *003 『世』は「卍」の正字。『卍』をも見よ。
- *004 『卍』は「世」の異体字。『世』をも見よ。
- *005 『主』は初画の点を横画に書く。
- *006 『久』はすべて初画の「ノ」を「く」の字に書き、二画目の「フ」を「ノ」に書く。
- *007 『及』はすべて二画目を二つに分けて四画で書く。(岩井92)。
- *008 『亂』は「乱」の旧字体。
- *009 『事』はすべて六画目の横画は「亅」を横に貫かず、「亅」に書く。
- *010 『人』(岩井92)。
- *011 第3紙21行目14文字目右下の『人』の例は、同14文字目の「之」の下に補入箇所を示す「○」印を付し、
- *012 『今』はすべて四画目の「フ」を「一」と「ノ」に分けて書く。
- *013 『仙』は「山」の「丨」の初画を縦画と横画に分けて書く。
- *014 『仰』は四画目の「丨」を縦画と撥ねに分けて書く。
- *015 『伐』はすべて「戈」の二画目を撥ねない。
- *016 『住a』は「主」の初画を点に書く。
- *017 『住b』は「主」の点を横画に書く。
- *018 『佛』は「仏」の旧字体。旁を「弓」に書かず、「弗」に書く。
- *019 『依』は「衣」の最終画を短く留めて衣偏のように書き、払わない。
- *020 『使』(岩井92)。
- *021 『供』はすべて「共」の初・二・三画の「亅」を「亅」に書く。
- *022 『修』はすべて「攴」の二画目の横画を省略して書く。
- *022 『假』は「仮」の旧字体。

- *023 『共』は初・二・三画の「艹」を「艹」に書く。
- *024 『凶』は「メ」を「又」に書く。「凵」の初画を縦画と横画に分けて書く。
- *025 『出a』は一般的なもの。
『出b』は「山」を二つ重ねて書く。
a bともに「山」の「凵」の初画を縦画と横画に分けて書くものがある。
- *026 『分』は「八」を「人」に、「刀」を「力」に書く。
- *027 『初』はすべて衣偏の最終二画を平行に書く。
- *028 『利』はすべて「禾」の初画を横画に書き、四・五画目を崩書きする。
- *029 『刼』は「刼」の異体字。
- *030 『勉』は「ク」の二画目の「フ」を「ノ」に書く。
- *031 『動』はすべて「重」の初画を横画に書く。
- *032 『勤』は「勤」の旧字体。JIS外字。四画目の横画を長く書く。
『勤a』は一般のもの。
『勤b』は九・十・十一画目の横画が一つ少なく「勤」のように十二画で書く。
- *033 『包』は「匚」を「巳」に書く。
- *034 『危』は「々」の二画目の「フ」を「ノ」に書き、「巳」を「巳」に書く。
- *035 『即』はすべて四画目の「丨」を撥ねない。
- *036 『厚』は「日」を「白」に書く。
- *037 『參』は「參」の旧字体。
- *038 『又』(岩井92)。
- *039 『又』はすべて初画の「フ」を「ノ」に書く。
- *040 『吉』は「士」を「土」に書く。
- *041 『名』はすべて「夕」の二画目の「フ」を「ノ」に書く。
- *042 『咎』は「夕」の二画目「フ」を「ノ」に書き、「人」を「ノ」に書く。
- *043 『哉』は「戈」の二画目を撥ねない。
- *044 『唯』はすべて「隹」の三画目の点を横画に書く。
- *045 『喜』はすべて下部を「古」に書き、「喜」とする。
- *046 『善』はすべて下部を「古」に書き、「善」とする。
- *047 『器』は「器」の旧字体。「エ」を「ユ」に書く。
- *048 『巖』は「巖」の旧字体。「凵」を「凵」に書く。
- *049 『固』(岩井92)。
- *050 『坑a』は一般的なもの。

『坑b』は「凡」を「凡」に書く。

『坑c』は「亢」を「元」に書く。

*051 『垂a』は三画目以降を「𠂔」に書き、「垂」とする。

また、最終画を「𠂔」に書く。

『垂b』は三画目以降を「𠂔」に書き、「垂」とする。

また、最終画を「𠂔」に書く。

*052 『執a』は一般的な楷書体。「丸」の二画目は撥ねない。

『執b』は第3紙16行目の17文字目下の欄外に「○」印を付し、その右に崩書きの小字で補入されたもの。

「執」に書く。「丸」の二画目を撥ねる。『執a』とは書体が異なるため、本文と同筆かどうかは不明。

*053 『埴』はJIS外字。「陷」・「坎」の異体字。「埴」に書く。

*054 『堪』は「匹」の最終画を縦画と横画に分けて書く。

*055 『堅』はすべて「臣」を「臣」に書く。(岩井92)。

*056 『堤』は「是」を「是」に書く。

*057 『増』は新字体。旧字体「増」をも見よ。

*058 『増』は「増」の旧字体。JIS外字。「増」に書く。新字体「増」をも見よ。「曾」の初・二画目の「八」

を「𠂔」に書く。

*059 『壞a』は新字体。「衣」の最終画は短く留めて払わない。旧字体『壞』をも見よ。

『壞b』は「壞」に書く。誤字か。「衣」の最終画は短く留めて払わない。新字体『壞』をも見よ。

*060 『墾』は二画目以降の「ツ」の点が一つ多く、「艮」の最終画は短く留めて払わない。また「土」を「土」に書く。

*061 『壞』は「壞」の旧字体。「衣」の最終画は短く留めて払わない。新字体『壞a・b』をも見よ。

*062 『多』はすべて「夕」の二画目の「フ」を「ノ」に書く。

*063 『夜』はすべて「夕」の二画目「フ」を「ノ」に書く。(岩井92)。

*064 『大』(岩井92)。

*065 『天』はすべて初画が二画目より短い。(岩井92)。

*066 『嫖』はJIS外字。「嫖」に書き、「木」は「ホ」の形に書く。

*067 『定』はすべて「宀」に「之」に書く。

*068 『實』は「実」の旧字体。(岩井92)。

- *069 『寶』は「宝」の旧字体、「寶」の異体字。
- *070 『將』は「将」の旧字体。「月」の二画目を縦画と横画に分けて書く。「夕」を「夕」に書き、「夕」の二画目の「フ」を「ノ」に書く。
- *071 『尊a』は「𠂔」「𠂕」「目」「一」「寸」からなり、「尊」とする。
『尊b』は『尊a』の初画・二画目を「八」に書く。
- *072 『導』は「導」の旧字体。「首」の初・二画目をまとめて横画とする。また「辶」を「辵」とする。
- *073 『小』は「大藏經」の翻刻では「少」とある。前後に「少欲」の用例が見えることと、「欲」の多少を問題とする内容から考えて、原本（総持寺本）の「小」は「少」の誤りと思われる。
- *074 『瓮』はJIS外字。「瓮」に書く。
- *075 『屏』は「屏」の異体字。
- *076 『山』は「𠂔」の初画を縦画と横画に分けて書く。
- *077 『師a』は一般的なもの。
『師b』は初画の点がない。
- *078 『廢』は「廢」の旧字体。
- *079 『弟』はすべて初画・二画目の「𠂔」を「八」に書く。
- *080 『後a』は「𠂔」の終画と「夕」の初画をつづけて書かない。
『後b』は「𠂔」の終画と「夕」初画をつづけて書く。
- *081 『復a』の旁は「二」「日」「夕」からなり、「復」に書く。
『復b』の旁は「夏」に書き、「復」に書く。（岩井92）。
- *082 『徳』はJIS外字。「徳」の旧字体。「𠂔」と「心」の間に横画が一つある。
- *083 『忘』はすべて「亡」の三画目を縦画と横画に分けて書く。
- *084 『念』はすべて「𠂔」を「𠂔」に書く。
- *085 『怨』はすべて「𠂔」を「𠂔」に書く。
- *086 『急a』は一般的なもの。
『急b』は「𠂔」の二画目が「𠂔」を貫いて「𠂔」に書く。
- *087 『悔』は「悔」の初画・二画の「𠂔」をまとめて横画に書き、それを三画目が貫き、「悔」に書く。

- *088 『悪』はすべて「亜」を「西」に書く。
- *089 『惱a』は一般的な新字体。旧字体「惱」をも見よ。
『惱b』は「凶」を「山」に書く。旧字体「惱」をも見よ。
- *090 『惑』は「心」を「或」の中に書き、「惑」に書く。
- *091 『感』は「心」を「咸」の中に書き、「感」に書く。
- *092 『惱』は「惱」の旧字体。新字体「惱a・b」をも見よ。
- *093 『愧』はすべて「鬼」の初画の点がない。「ム」を「ム」に書く。
- *094 『慧a』は「ヨ」を「丑」に書く。
『慧b』は「ヨ」を「丑」に書き、「慧」を「慧」に書く。
- *095 『慚』は「慚」の異体字。『慚』をも見よ。
- *096 『憤』はJIS外字。
- *097 『憍』はJIS外字。
- *098 『憐』は「舛」を「舛」に書く。
- *099 『懈』は「刀」を「力」に書き、「牛」は初画の「ノ」を欠く。
- *100 『懷a』は一般的なもの。「衣」の最終画は払わない。
- 『懷b』は「懷」に書く。誤字か。「衣」の最終画は払わない。
- *101 『應』は「応」の旧字体。
- *102 『我』はすべて「我」に書く。「戈」の二画目は撥ねない。
- *103 『戒』はすべて「戒」に書く。「戈」の二画目は撥ねない。
- *104 『戲』は「戲」の旧字体。すべて「豆」の五・六画目をまとめて横画一つに書く。「戈」の二画目は撥ねない。
- *105 『所』はすべて初画を点に書く。
- *106 『提』はすべて「是」を「是」に書く。
- *107 『損』は「貝」の「口」を「ム」に書く。
- *108 『故』(岩井92)。
- *109 『教a』はすべて一般的なもの。
『教b』は初画・二画を「メ」に書く。
- *110 『數』(岩井92)。
- *111 『於』はすべて五・六画目の「人」を「人」に書く。
- *112 『既』はJIS外字。「既」の旧字体。「无」を「元」に書く。(岩井92)。

- *113 『易』は「日」の最終画を長く「易」に書く。
- *114 『是a』は一般的なもの。
『是b』は「是」に書く。
- *115 『時』はすべて「寺」の「土」を「上」に書く。
- *116 『晝』は「晝」の旧字体。
- *117 『智a』は一般的なもの。
『智b』は初画と二画目の「亠」を続けて書く。
- *118 『會』は「会」の旧字体。
- *119 『服』はすべて「艮」を「艮」に書く。
- *120 『本』はすべて「本」に書く。
- *121 『来』はすべて二・三画目をまとめて横画一つに書き、「来」に書く。
- *122 『植』は最終画を横画に書く。
- *123 『槃』はすべて「攴」の「几」を「口」に書く。また書写が進むに従って「般」の下に「木」を書く形から、「舟」を偏のように書き、「攴」の下に「木」を書く形に変化してきている。「木」はすべて「木」の形に書く。
- *124 『樂』は「樂」の旧字体。「樂」の「木」は「ホ」の形に書く。
- *125 『樓』は「楼」の旧字体。(岩井92)。
- *126 『樹』はすべて七画目の横画を短く書き、「ユ」が「ㄣ」になる。
- *127 『欲』はすべて「欲」に書く。これはJIS外字。「欲」の俗字。(岩井92)。
- *128 『歡』は「歡」の旧字体。すべて「口」二つを横画一つに省略して書く。
- *129 『正』はすべて四・五画目をつづけて書く。
- *130 第2紙22行目4文字目の『殺』は「攴」を「口」と「又」に書く。
- *131 『毀』は「臼」を「旧」のように書く。
- *132 『毒』はすべて「母」を「母」に書く。
- *133 『比a』は四画に書く。
『比b』は二画目の「丿」を縦画と撥ねに分けて五画に書く。
『比c』は左の「匕」から右の「匕」に移る際に続け書きする。
- *134 『求』はすべて「水」の「ノ」を「フ」に書く。
- *135 『決』はすべて「夬」の二画目の横画を短く書き、「ユ」が「ユ」になる。

- *136 『海』はすべて「毎」の初画・二画の「乇」をまとめて横画に書き、それを三画目が貫き、「海」に書く。
- *137 『浄』はすべて「争」の「㇀」の二画目「フ」を「ノ」に書く。
- *138 『涅』はすべて「土」を「ユ」に書く。
- *139 『流』は最後の三画を「水」に書く。
- *140 『滅』（岩井92）。
- *141 『渴』は「渴」の旧字体。JIS外字。「亾」を「止」に書く。
- *142 『滅』はすべて「火」の初画・二画目をまとめて横画一つに書き「大」とする。
- *143 『澤』は「沢」の旧字体。
- *144 『然a』は一般的なもの。「灬」の初画は左下に向けず、二画目以降と同じ向きに書く。
- *145 『然b』は二画目を縦画にする。「然」の異体字。「灬」の初画は左下に向けず、二画目以降と同じ向きに書く。
- *146 『無』はすべて初・二画目の「㇀」を「㇁」に書く。「灬」の初画は左下に向けず、二画目以降と同じ向きに書く。
- *147 『照』は「刀」を「㇀」に書く。「灬」の初画は左下に向けず、二画目以降と同じ向きに書く。
- *148 『煩a』は一般的なもの。
- *149 『煩b』は「火」の初画・二画目をまとめて横画一つに書き「大」とする。
- *150 『爲a』は「為」の旧字体。「ハ」の真ん中の字画を欠く。『為・爲b』をも見よ。
- *151 『爲b』は「為」の旧字体。「爪」の初画を欠き、「ハ」をまとめて横画一つで書く。『為・爲a』をも見よ。
- *152 『尔』は「爾」の異体字。すべて初画・二画目を「入」に書く。
- *153 『牽』はすべて「玄」に「㇀」が重ならず「牽」に書く。
- *154 『犯』は「巳」を「巳」に書く。
- *155 『猴』は「ユ」を「亡」に、「矢」を「天」に書く。
- *156 『猶a』は一般的なもの。
- *157 『猶b』は第5紙13行目の17文字目下の欄外にやや小字で補入されている。補入箇所に「○」印が見え

ない。墨色が薄く、獸偏に「首」に見える。『猶a』とは書体もやや異なるため、本文と同筆かどうかの比較は困難である。

*154 『猿』は「袁」を「表」に書く。最終画は払わない。

*155 『獨』は「独」の旧字体。

*156 『獸a』は「獸」の旧字体。

『獸b』は「獸」の旧字体。十三、四、五画目の「口」を「ム」に書く。

*157 『玼』は「珍」の異体字。

*158 第2紙7行目7文字目の『甚』は最終画を縦画と横画の二画に分けて書く。

*159 『異』はすべて「共」の最初を「廿」に書く。

*160 『當』は「当」の旧字体。

*161 『疑』はすべて「匕」を「止」に書き、「矢」を「ス」に書く。また、「マ」は「コ」、「疋」は「又」に書く。

*162 『疾』はすべて「矢」を「夫」もしくは「失」に書く。

*163 『瘦』はJIS外字。「大藏經」の翻刻では「瑕」とある。「大藏經」の注記によれば「瘦」とするのは

宋本と宮内省図書寮本。

*164 『癡』は「痴」の旧字体。「疑」は「匕」を「止」に書き、「矢」を「ス」に書く。また、「マ」は「コ」、「疋」は「又」に書く。

*165 『皆a』は二画目の「丿」を縦画と払いとに分けて書く。

『皆b』は「比」をくずし書きする。
『皆c』は左の「匕」を「止」に書く。

*166 『益a』は一般的なもの。また、三・四画目をつづけて書く。

『益b』は「皿」を「血」に書く。また、三・四画目をつづけて書く。

*167 『直a』は最終画を横画一つで書く。「目」の最終画を左下に払う点に書く。

『直b』は最終画を横画一つで書く。「目」の最終画を省略して書く。

*168 第6紙19行7文字目「間」の右に見える『相』は異本注記の記載。第6紙19行目の「世間」の「間」の左に「・」を付し、右に小字で「相イ」とある。「世間」は「世相」とあるの意であろう。墨色が薄

く、本文と同筆かどうかの比較は困難である。「大藏經」の翻刻では「世相」とし、注記で「世間」とするのは宮内省図書寮本のみとする。

*169 『睡a』は最終画を「㇀」に書く。

『睡b』は最終画を「㇀」に書く。また、「垂」の二画目を省略する。誤記か。

*170 『曠』はすべて「目偏」に「真」に書く。

*171 『知a』はすべて一般的なもの。

『知b』は「矢」の二画目の「一」を「ノ」に書く。
『知c』は「矢」の初画・二画目をつづけて書く。

*172 『破』(岩井92)。

*173 『禪』は「單」の二つの「口」を「㇀」にくずして書く。旧字体『禪』をも見よ。

*174 『禍』はJIS外字。「禍」の異体字。示偏を衣偏に書く。誤記か。

*175 『禪』は『禪』の旧字体。示偏を「ネ」に書く。『禪』をも見よ。

*176 『稱』は「称」の旧字体。「禾」の初画を横画に書く。

*177 『穩』は「穩」の旧字体。「禾」の初画を横画に、「工」を「㇀」に、「㇀」を「㇀」に書く。

*178 『空』はすべて「工」を「㇀」に書く。

*179 『竭』は「亾」を「止」に書く。

*180 『第』はすべて竹冠を艸冠(++)に書く。

*181 『等』はすべて竹冠を艸冠(++)に書く。「寺」の「土」を「㇀」に書くものもある。

*182 『筭』はJIS外字。「算」と同音同義。

*183 『節a』は一般的なもの。竹冠は左に寄る。

『節b』は竹冠を艸冠(++)に書く。艸冠は左に寄る。

*184 『籌』は十四画目の横画がない。

*185 『終』の糸偏は「糸」に書く。「冬」の二画目の「フ」は「ノ」に書く。

*186 『結』の糸偏は「糸」に書く。

*187 『經a』の糸偏は「糸」に書く。旁は「丕」に書く。「工」を「㇀」に書く。

『經b』の糸偏はすべて「糸」に書く。旁は「丕」に書く。

*188 『縁』の糸偏はすべて「糸」に書く。

*189 『縦』の糸偏はすべて「糸」に書く。また、「イ」の右側は「㇀」に「之」を書く。

- *190 第2紙5行11文字目の『縦』は「ノ」の下の横画を欠き、「乏」に書く。
- *191 『縛』の糸偏は「糸」に書く。糸偏に「專」に書き、右上の点を欠く。
- *192 『缺』は「欠」の旧字体。「缶」を「缶」に書き、「夫」の二画目を短く書き、「ユ」を「コ」にする。
- *193 『置』は最終画を横画に書く。
- *194 『羅』は「糸」はすべて「糸」に書き、「佳」の三画目の点を横画に書く。(岩井92)。
- *195 『着』はすべて「目」を「日」に書く。
- *196 『義』は「我」の初画を横画に書き、「戈」は撥ねない。また、「我」は「我」に書く。
- *197 『習』はすべて「白」を「日」に書く。
- *198 『而』は第5紙10行13文字目の例以外は最後の二画を「八」に書く。
- *199 『耻』は「恥」の異体字。
- *200 『聞』(岩井92)。
- *201 『聲』は「声」の旧字体。「殳」の「几」を「ロ」に書く。
- *202 『脆』は「危」の「ク」の二画目「フ」を「ノ」に書く。また、「巳」を「巳」に書く。
- *203 『能a』は一般的なもの。
- 『能b』は右側を「去」に書く。
- 『能c』は右側を「丰」に書く。
- *204 『卧』はJIS外字。「臥」の異体字。「臣」を「臣」に書く。
- *205 『與』は「与」の旧字体。
- *206 『船』は「船」の異体字。
- *207 『色』はすべて「ク」の二画目の「フ」を「ノ」に書く。
- *208 『苦』はすべて艸冠は「艸」に書く。但し第6紙4行2文字目の例は「十」が重なって「艸」に見える。
- *209 『若a』の艸冠は「艸」に書く。
- 『若b』の艸冠は「艸」に書く。
- 『若c』の艸冠は「艸」に書く。
- 『若d』の艸冠は「艸」に書く。
- *210 『苗』は艸冠を「艸」に書く。
- *211 『草』は艸冠を「艸」に書く。
- *212 『莊』は「莊」の旧字体。艸冠は「艸」に書く。
- *213 『華』はJIS外字。「華」(10画)の旧字体。艸冠

は「艹」に書く。

*214 『葳』の艸冠は「艹」に書く。「臣」は「臣」に書く。

「戈」は撥ねない。(岩井92)。

*215 『藥』は「藥」の旧字体。艸冠は「艹」に書く。また、「木」は「ホ」に書く。

た、「木」は「ホ」に書く。

*216 『虚』は「虍」を「厶」に書く。

*217 『處』は几部「処」の旧字体。「虍」を「厶」に書く。

*218 『虵a』は「蛇」の異体字。JIS外字。虫偏は一般的なもの。

一般的なもの。

『虵b』は「蛇」の異体字。JIS外字。虫偏を

「彳」に書く。

*219 『虻』はJIS外字。

*220 『蜂』は「夂」の二画目の「フ」を「ノ」に書く。

*221 『衆』はすべて「血」を「血」に書き、「シ」を「ラ」に書く。

に書く。

*222 『術』は「行構え」の中を「木」に書く。

*223 『衣』はすべて二画目と三画目をつづけて書く。

*224 『被』は衣偏の最後の二画を平行に書く。

*225 『見』(岩井92)

*226 『觀』は「觀」の旧字体。すべて「口」二つをま

めて横画一つで書く。

*227 『解』はすべて「角」の「ク」を「々」に書き、「刀」

を「力」に書き、「牛」は初画を欠く。

*228 『觸』は「触」の旧字体。「角」の「ク」を「々」に

書く。

*229 『言』(岩井92)。

*230 『誨』は言偏に「每」に書く。

*231 『誑』(岩井92)。

*232 『語』(岩井92)。

*233 『誦』は「マ」を「コ」に書く。

*234 『説a』は一般的なもの。(岩井92)。

『説b』は「説」に書く。

『説c』は「説」に書く。

*235 『諸』(岩井92)。

『詔』はすべて「白」を「囧」に書く。

*236 『譬』(岩井92)。

*237 『譯』は「訳」の旧字体。

*238 『護a』はJIS外字。「護」の旧字体。艸冠の下に

横画を書き、「又」を「夂」に書く。艸冠を「艹」

に書く。

- 『護b』はJIS外字。「護」の旧字体。艸冠の下に横画を書き、「又」を「夕」に書く。艸冠を「サ」に書く。
- *240 『象』はすべて「ク」の二画目の「フ」を「ノ」に書き、「田」を「田」に書く。
- *241 『貧』はすべて「刀」を「力」に書く。
- *242 『質』は「ム」を「夕」に書く。
- *243 『賊』はすべて「戈」は撥ねない。
- *244 『賣』は「売」の旧字体。
- *245 『起』はすべて「走」を「走」に書き、「己」を「尸」に書く。
- *246 『越』は「走」を「走」に書く。「戈」は撥ねない。
- *247 『趣』はすべて「走」を「走」に書く。
- *248 『足a』は一般的なもの。
『足b』は「足」に書く。
- *249 『蹕』はJIS外字。
- *250 『輕』は「輕」の旧字体。「丕」を「丕」に書き、「エ」を「ユ」に書く。
- *251 『轉』は「転」の旧字体。
- *252 『辨』は「弁・辨」と同音同義。
- *253 『迦』は「𠂔」を「𠂔」に書く。
- *254 『通』はJIS外字。『通』の旧字体。「𠂔」を「𠂔」に書く。「マ」を「ユ」に書く。
- *255 『進』はJIS外字。『進』の旧字体。「𠂔」を「𠂔」に書く。「佳」の三画目を横画に書く。
- *256 『逸』はJIS外字。『逸』の旧字体。「𠂔」を「𠂔」に書く。「免」の「ク」の二画目の「フ」を「ノ」に書き、「免」の五画目と七画目をつづけて書く。
- *257 『過』はJIS外字。『過』の旧字体。「𠂔」を「𠂔」に書く。「𠂔」を「𠂔」に書く。
- *258 『遇』はJIS外字。『遇』の旧字体。「𠂔」を「𠂔」に書く。
- *259 『達』はJIS外字。『達』の旧字体。「𠂔」を「𠂔」に書く。「羊」の横画を一つ欠く。
- *260 『道』はJIS外字。『道』の旧字体。「𠂔」を「𠂔」に書く。「首」の初画・二画目をまとめて横画一つで書く。
- *261 『違』はJIS外字。『違』の旧字体。「𠂔」を「𠂔」に書く。「韋」の最初の「ユ」を「ユ」に書き、「キ」を「甲」に書く。

- *262 『遠』はJIS外字。『遠』の旧字体。「辵」を「辵」に書く。「袁」を「土」と「衣」に書く。
- *263 『避』はJIS外字。『避』の旧字体。「辵」を「辵」に書く。
- *264 『醫』は「医」の旧字体。
- *265 『釋』は「釈」の旧字体。
- *266 『鐵』は「鉄」の旧字体。「戈」は撥ねない。
- *267 『鑽』は「鑽」の異体字。
- *268 『閻』(岩井92)。
- *269 『阿』(岩井92)。
- *270 『陀a』はJIS外字。「陀」の異体字。「色」を「色」に書く。
- 『陀b』はJIS外字。「陀」の異体字。「色」を「色」に書く。
- *271 『降』は「夂」の二画目の「フ」を「ノ」に書く。
- *272 『除』は「禾」を「未」に書く。
- *273 『隨』は「隨」の旧字体。「左」の「エ」を「コ」に書く。
- *274 『隱』は「隱」の旧字体。「穩」の誤写か。「大藏經」は『隱』とする。
- *275 『雖a』は一般的なもの。「隹」の三画目は横画に書く。
- 『雖b』は「虽」を「虽」に書く。「隹」の三画目は横画に書く。
- 『雖c』は「虽」を「虽」に書く。「隹」の三画目は横画に書く。
- *276 『雙』は「双」の旧字体。「隹」の三画目は横画に書く。「又」を「夕」に書き、その二画目の「フ」を「ノ」に書く。
- *277 第6紙24行目3文字目右下の『離』は第6紙24行目3文字目の「出」の下に「○」印を付し、その右にやや小字で補入されている。小字のため字画がつぶれて本文と同筆かどうかの比較は困難であるが、墨色は本文と類似する。その「隹」の三画目は横画に書く。
- *278 『難』はJIS外字。「難」の旧字体。四画目の横画を長く書く。「隹」の三画目は横画に書く。
- *279 『露』は二つの「禾」をいづれも「木」に書く。
- *280 『靜』は「争」の二画目の「フ」を「ノ」に書き、四画目の横画は「コ」を貫かず「ヨ」に書く。

- *281 『須』は「彡」を「彡」に書く。
- *282 『預』は「マ」を「コ」に書く。
- *283 『顯』は「顯」の旧字体。
- *284 『餘』は「余」の旧字体。「禾」を「未」に書く。
(岩井92)。
- を「内」のように書いてしまったものと推測される。明本の例もこれを受けたものであろう。この問題は佛遺教經の異本の系統を考える上での一つの視点として位置づけられるものと思われる。

*285 『香』は「禾」の初画を横画に書く。

- *286 『鬧』は「大藏經」の翻刻による。原本は「内」に書く。「大藏經」の注では異本の中でも明本のみが総持寺本原本の表記と一致する。諸橋轍次の『大漢和辞典』(縮写版巻三・大修館書店 五五八頁)には、五八四七番に「内」が見えるものの、音は「デウ」、義未詳とある。一方、「鬧」は呉音が「ネウ」、漢音が「ダウ」とあり、総持寺本原本「内」には「子ウ」の振仮名が見えて、「鬧」の呉音「ネウ」と一致する。しかし、「内」と「鬧」の字形が異体字の関係とは思われない。そこで、『大漢和辞典』巻一・六三四頁の四〇五番「吏」をみると、「吏、與鬧同」という玉篇の例をひいて「鬧」と同じとする。これにより、総持寺本原本の「内」は『大漢和辞典』の五八四七番とは無関係で、四〇五番の「吏」